

# 「協同労働者」の生活・労働・経営観 労働者協同組合センター事業団組合員 2001年仕事と暮らしに関する アンケート調査報告

- ・ 調査のあらまし 24
- ・ 組合員の構成、仕事・生活環境の概要 25
- ・ 事業団に加入した理由、そして今の仕事に対する意識 30
- ・ 仕事環境の意識 32
- ・ 健康、地域、老後、介護、子育て、ストレスと悩み 34
- ・ 組合員と地域社会 38
- ・ 労働者協同組合（事業団）の事業経営に関する意識 40
- ・ 組合員の自己研鑽、学習・教育研修について 44
- ・ 協同組合諸制度の認知度と協同労働について 48
- ・ 満足度について 51

別記1：現在持っている資格自由記入欄 54

別記2：過去5年間での習い事、教室など4回以上29名の内訳 55

別記3：「良い仕事」の具体例自由記入欄 57

表：62

## 目次

### ．調査のあらまし

### ．組合員の構成、仕事・生活環境の概要

1. 就労者の構成
2. 入団時期と入団直前の仕事
3. 公教育履修暦、獲得資格
4. 結婚、居住世帯、住居
5. 住居と職場、通勤時間
6. 一日当たり平均労働時間
7. 年収について

### ．事業団に加入した理由、そして今の仕事に対する意識

1. 事業団に加入した理由と働き続けている理由
2. 仕事をしていて良かったと思うこと
3. 働いて良かったと思うか、その理由
4. 事業団で働きたいか、および事業団以外での就業意思

### ．仕事環境の意識

1. 現給与の評価は
2. 職場で “自分はなくならない存在 ”

### ．健康、地域、老後、介護、子育て、ストレスと悩み

1. 健康状態と健康意識
2. 自分の老後の不安と理由 (3つ)
3. 親の介護に関する不安
4. 子育ての不安
5. ストレスとその解消法
6. 悩みの相談相手

### ．組合員と地域社会

1. ボランティアや地域活動
2. 近所とのつきあい、地域コミュニティ
3. 職場、近隣・近所以外の友人

### ．労働者協同組合(事業団)の事業経営に関する意識

1. 経営状況を知っているか

2. 組合経営への参加意識
3. 「協同労働」の機関会議 - 団会議への参加意識
4. 職場の民主的風土・雰囲気認識
5. 事業計画作りへの参加意識
6. 運営への正統的積極的参加こそ最大の学習機会

・組合員の自己研鑽、学習・教育研修について

1. 習い事
2. 読書・情報収集・IT
3. 学習会・教育研修企画への参加
4. 労協新聞の認知活用度
5. ホームヘルパー資格、通信教育受講意欲

・協同組合諸制度の認知度と協同労働について

1. 事業団の様々な制度の認知・認知度
2. 「ICA :協同組合の定義、価値、原則」と「労働者協同組合の新原則」の内容
3. 高齢者協同組合(高齢協)の加入率、参加度、認知度
4. 購買生協や医療生協、他の協同組合との関わり
5. 知人・友人の方に「労働者協同組合」の話を
6. ICAやJJC加入認知度
7. 「職場と私」

・満足度について

1. 総合集計
2. 収入に関して
3. 資産に関して
4. 余暇・ゆとりに関して
5. 生活全般
6. 仕事に関して
7. 心の豊かさに関して
8. 住環境に関して

## ・ 調査のあらまし

### 1. 調査の目的

- 労協センター事業団で働く組合員の、仕事と暮らしの関する状況とその意識を調査・分析し、今後のセンター事業団の労働条件、労働環境の改善、組合員の生活向上のために資するものとする。また、今後のセンター事業団の経営活動に生かす。

### 2. 調査方法と期間

- センター事業団在籍の組合員の全数調査
- 質問回答表への記入方式（択一選択、複数選択、自由記入）
- 調査期間2001年10月～11月
- 調査票を各事業所長経由で手渡し、記入後封入り回収、本部集約
- 2002年1月集約分までを集計対象にした

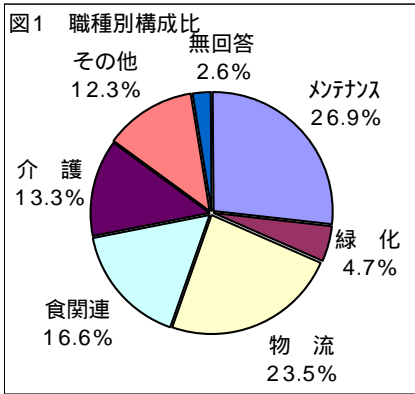
### 3. 回収率

- 回答者数1593名、回答率67%

### 4. 設問設定、分析

- 設問の選定と設定はセンター事業団理事会にて行った。
- 分析はセンター事業団理事会の委託を受け、協同総合研究所が行った。

・組合員の構成、仕事・生活環境の概要



1. 就労者の構成

【職種】

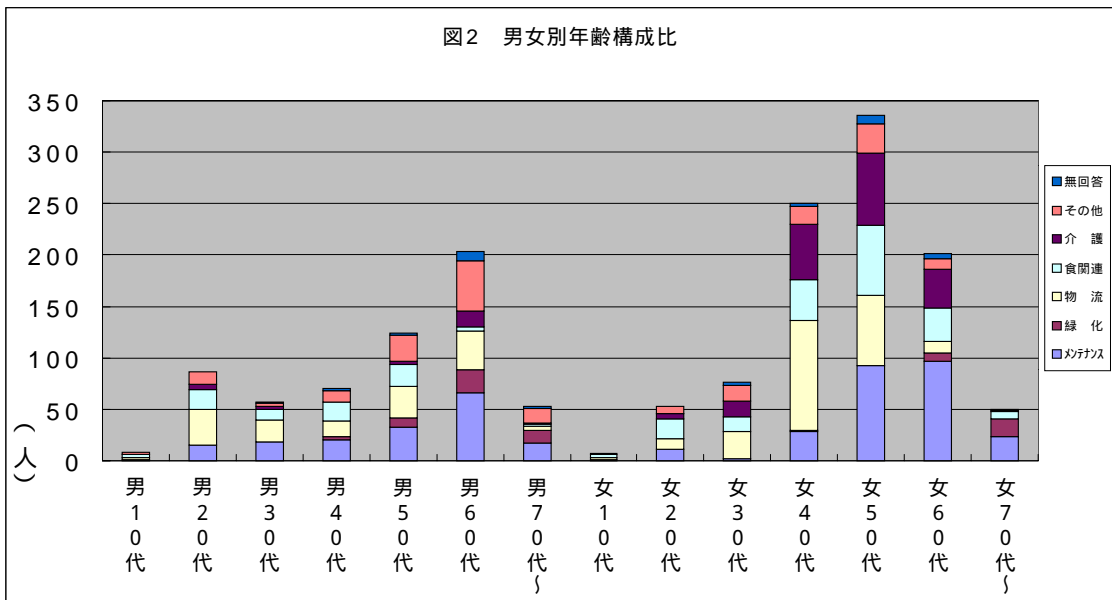
回答者の職種別就労者数は多い順から、ビルメン・清掃(26.9%)、物流(23.5%)、食関連(16.6%)、福祉・介護(13.3%)、公園・緑化(4.7%)、その他(12.3%)、無回答(2.6%)である(表1)(図1)。なお、の食関連の内訳は配食、給食、農協提携が含まれる。

【男女と年齢】

就労者男女比は女61.5%、男37.9%で、職種別に見ても公園・緑化を除いて全般的に女性就労者が多く、特に福祉・介護では顕著である(女87%、男13%)。一方ビルメン・清掃の30代では女性人数が少ない(女10%、男90%)。物流の40代では8割以上が女性である(女87%、男13%)(図2)。

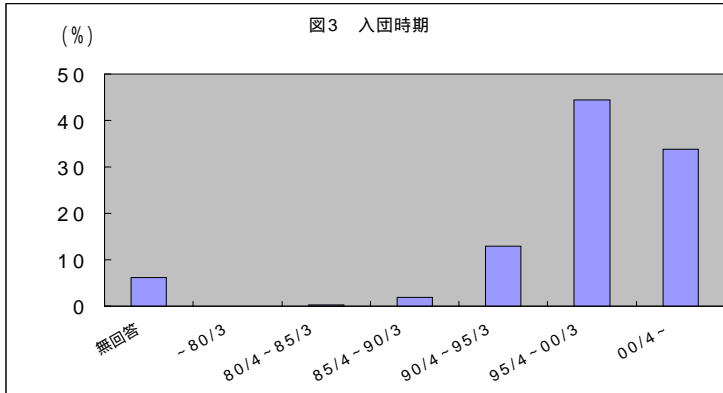
なお、事例は少ないが、介護・福祉に従事する男性27人のうち60歳以上は16人と半数を超えている。

回答者の年齢構成は全体では50代がピークとなっている。男女別に見ると、女性が50代を頂点に、男性が60代を頂点に分布している。特に40代と50代では女性数が男性数を大きく上回っている。個別職種別年代別に見るとビルメン・清掃の30代では女性人数が少ない(女10%、男90%)、勤務時刻が朝早いこともあり後出する結婚率も影響していると思われる。一方、物流の40代では8割以上が女性である(女87%、男13%)。



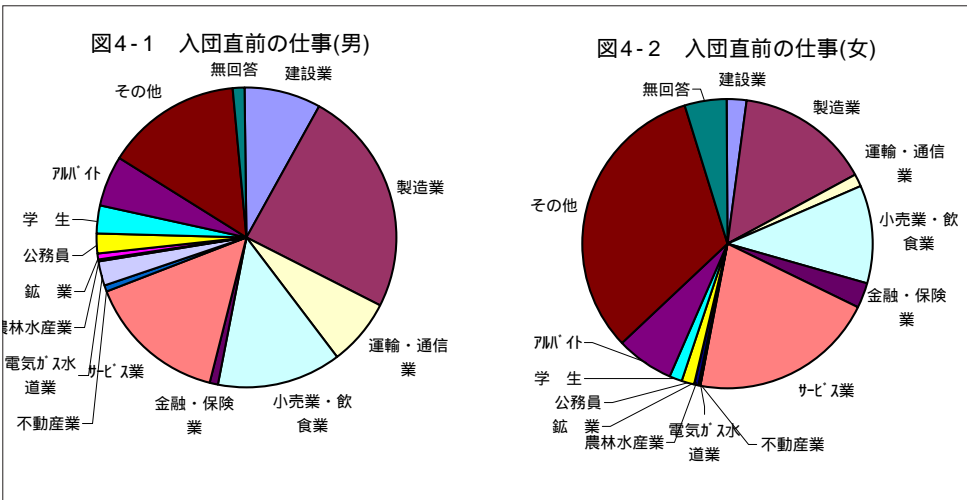
## 2. 入団時期と入団直前の仕事

センター自身20年の歴史であるが、有効回答者の8割強が1995年4月以降の入団で、1990年4月以降では回答者の97%に及ぶ(表2)(図3)。



入団直前の仕事は、サービス業(18.5%)、製造業(18.4%)、小売業・飲食業(11.7%)、アルバイト(6.0%)、建設業(4.5%)、運輸・通信業(3.6%)、学生(2.1%)、その他( )、NA(3.9)であった。女性で「その他」が突出している(32.4%)のは主婦等が含まれると思われる(表3)(図4-1, 2)。

就労契約形態で見ると、正規社員(40.2%)、臨時・パート(29.3%)、自営・自由業(8.7%)、派遣・契約社員(4.1%)、その他(12.9%)、NA(4.9)であった(表4)。



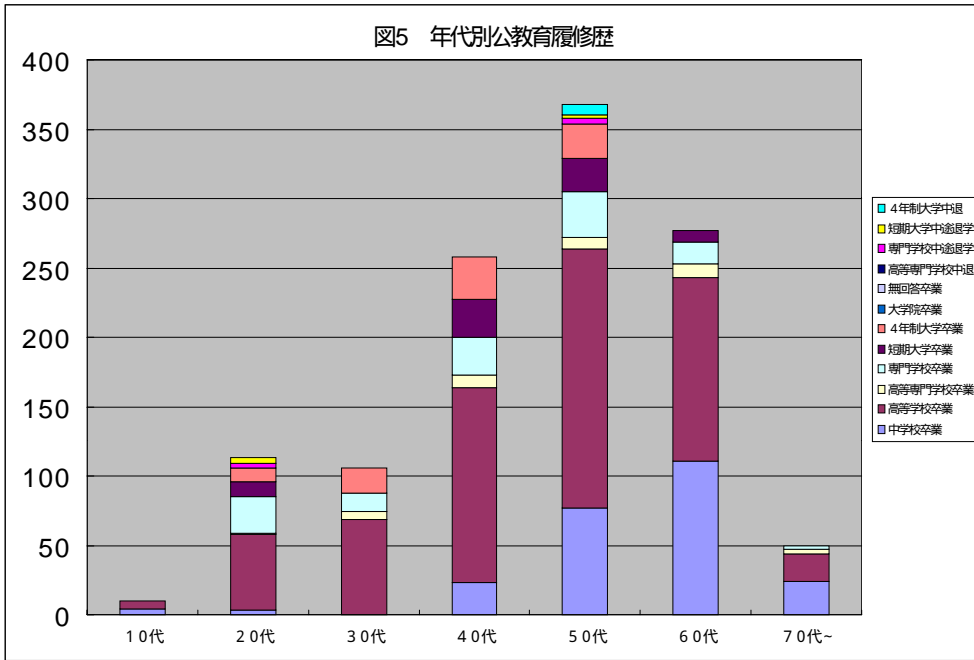
## 3. 公教育履修暦、獲得資格

全体では7割が高等学校経験者、2割が高等教育経験者である。公教育履修歴は年代別の差が現れている。

いわゆる高校大学進学率が男子先行型で時代とともに増加した傾向が現れている(表5)(図5)。

今回の調査では各人が持っている様々な資格について自由記入してもらった。実に多様な資格が組合員の中に保有されているのが特徴的である。

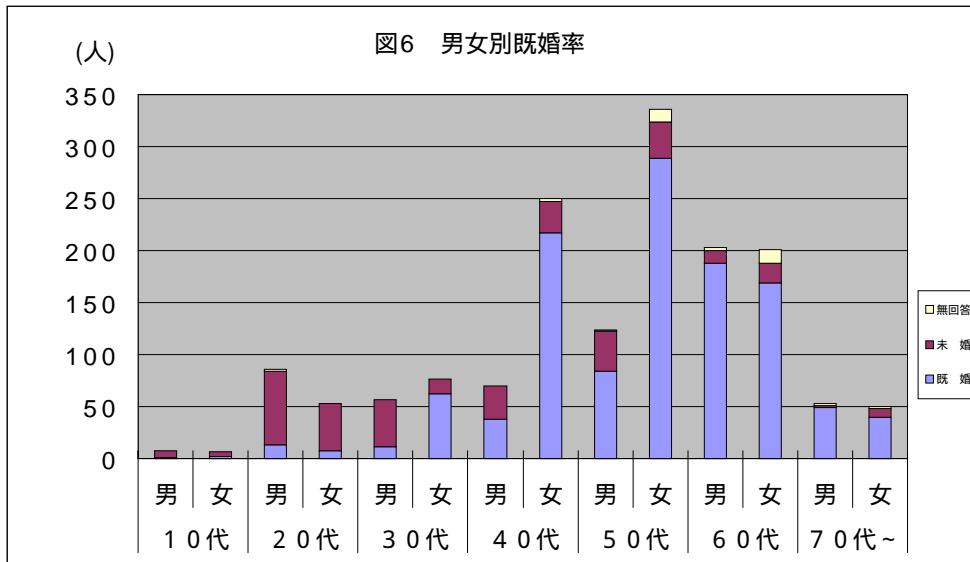
最も多い回答は自動車運転免許証で365人(約23%)、次いでホームヘルパー(1,2,3級)の261人(約16%)である。他に10人以上が回答した資格類は、調理師免許(74人)、簿記(61人)、珠算(54人)、フォークリフト(36人)、危険物取扱・高圧ガス関連取扱(33人)、ボイラー関連資格(29人)、栄養士(24人)、電気工事・設備資格(21人)、介護福祉士(22人)、保母・保育士・幼稚園教諭・小学校教員免許等(18人)、看護師(15人)、防火管理者資格(15人)、ワープロ・パソコンソフト技能(14人)、中学高校教諭免許(12人)、溶接(12人)、ク



レーン(11人)、華道・生花師範(11人)、衛生管理者(10人)、保険業務(10人)である。(9人以下については「別記1」参照)

#### 4. 結婚、居住世帯、住居

結婚についての無回答は全体で3.1%(女3.4%、男1.7%)であった。予想される通り、若年層で未婚率が高く、中高年から既婚率が高まる。しかし、極めて特徴的な結果が出ている。30代、40代、50代での既婚率の男女の差が著しい。すなわち、既婚率だけ比べれば、30代(女81.6% vs. 男19.3%)、40代(女86.8% vs. 男54.3%)、50代(女84.1% vs. 男67.7%)と

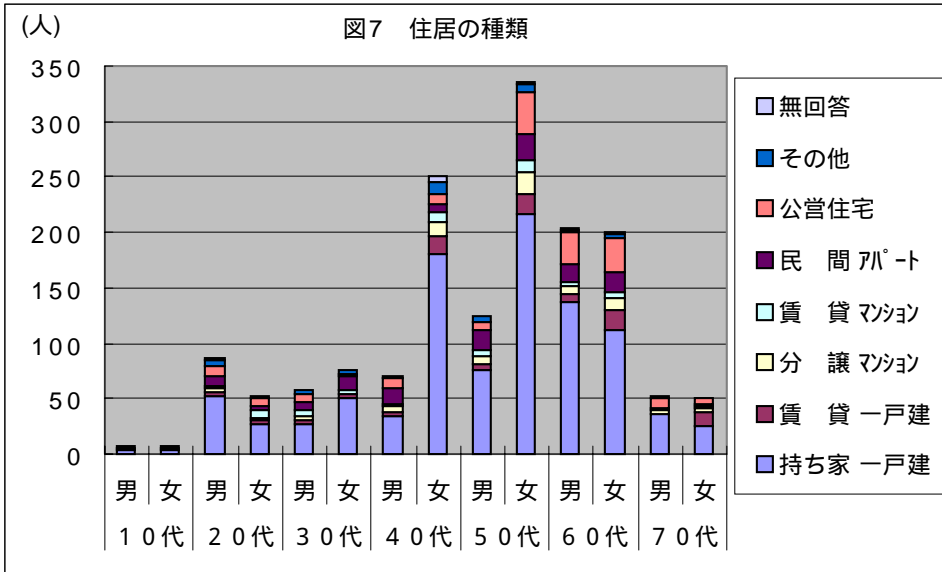


なっている(表6)(図6)。

居住している世帯では、8割以上が何らかの同居、単身は12.6%である。とくに単身世帯の年代別に注目したい。男性の単身は50歳代まで2割

弱を維持し、60代で半減しその後微増ないし横這いである。男性の場合は前出の既婚率とも関係していると推測される。一方、女性は劇的である。単身世帯は50代までは漸減し9.2%となるが、60歳以上では急増となる(60代15.4%、70代以上28.0%)(表6)。

住居の種類では持ち家一戸建てが男女とも6割強を占める。しかし年代別に見ると、女性の場合は40代の72%を頂点に漸減し70代以上で50%となり、代わりに公営住宅、賃貸一戸建てが増えている。男性は逆に30代、40代に持ち家一戸建ての谷があり、その分は民間アパート、公営住宅の増となっている。



なお、職種別には持ち家一戸建て保有率が物流で突出している(全体82.1%、女88.0%、男73.0%)。後出の生活地域の違いも一定影響しているかも知れない(表7)(図7)。

### 5. 住居と職場、通勤時間

住居と職場の回答は表8の通りである。

通勤時間は4分の3が30分以内(女性の78.5%、男性の68.2%)、9割が1時間以内の通勤時間である。職住近接と言える(表9)。

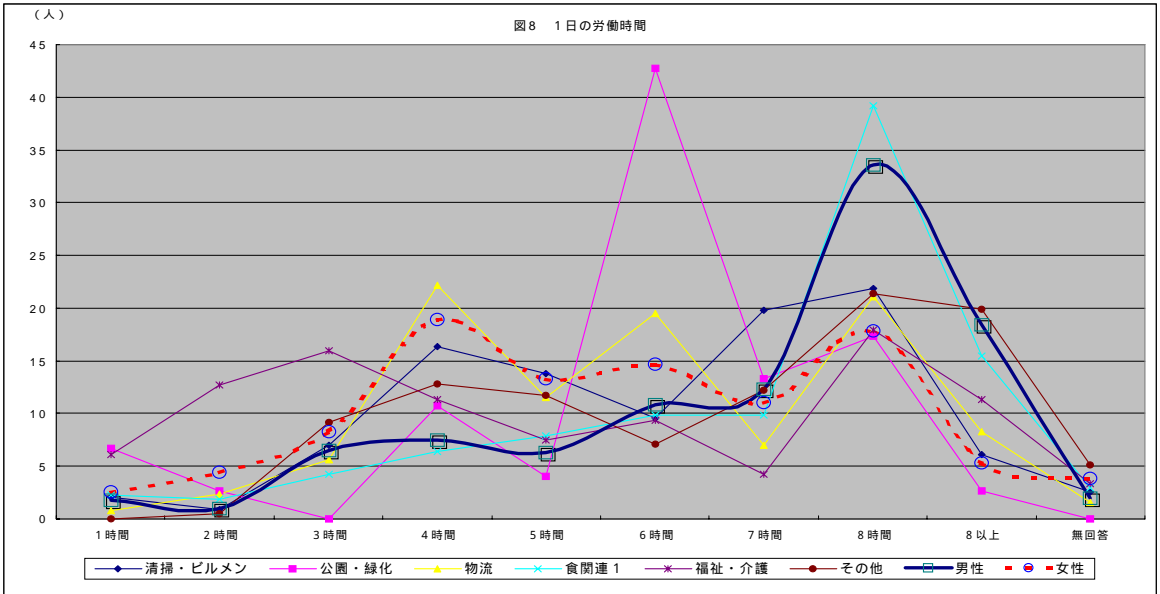
### 6. 一日当たり平均労働時間

1日平均の労働時間は年代別・職種別に違いが現れた。高齢者と女性に短時間労働者が多い。総合では8時間が最も多いが、組合員の一日当たりの労働時間は多彩である(表10)(図8)。高齢者が短時間労働に移行するのは職種に関わらず男女共通した現象であるが、男女の年代別の特徴は異なっている。男性の50代までは8時間かそれ以上が3分の2ほどを占めるのに対して、60歳以上は短時間化している。女性は30代以上で短時間化している。

職種別では、公園・緑化は6時間中心、物流が4,6,8時間、食関連で8時間、福祉・介護においては3時間と8時間に頂点がある。ビルメン・清掃は、4時間、8時間を頂上とするの分布である。男女別では、男性は8時間が33.6%と頂上になっているが、女性は4時間18.95%、8時間17.8%を両頂に分布している。

同じ職種では男女も似た労働時間分布になるが、各々の職種で女性が短時間労働にシフトし

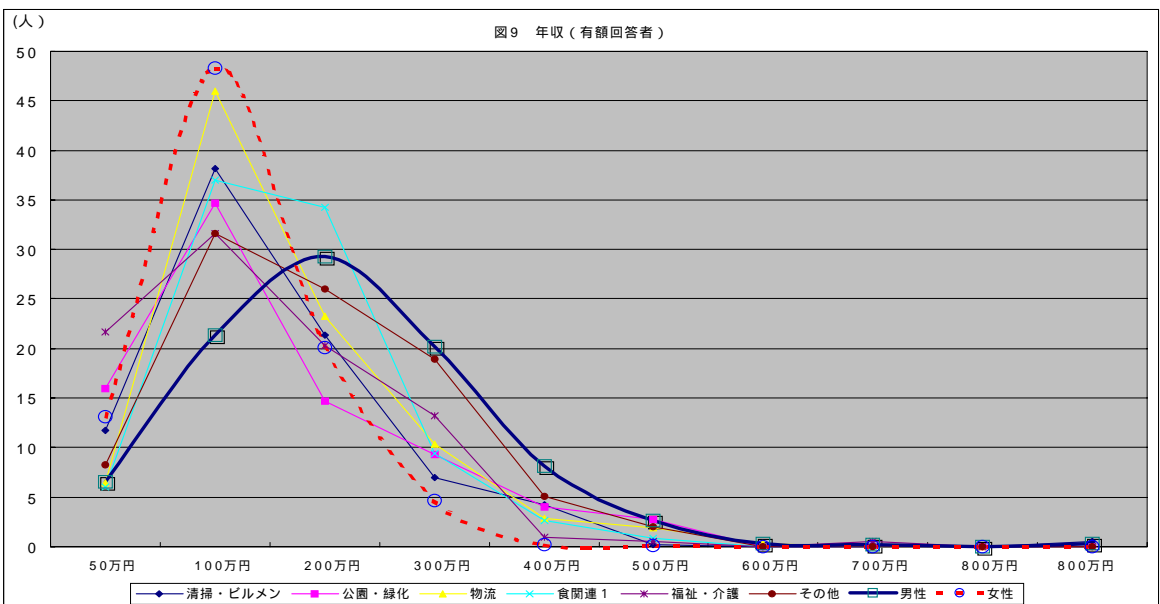




ていることが見て取れる。大枠で言えば、伝統的な職種では男性が8時間労働を最高頂点とした分布を示している中で、女性は「パートタイマー的労働時間」の分布をしていると言えよう。

## 7. 年収について

総合を見ると、本人年収では「50万円以上100万円まで」をピークに漸減であるが、ここでは労働時間の差に従って男女差が見える。女性の100万円以下は6割%を超え、これは30代以上の女性（既婚率8割以上）に共通しており、20代以下とは異なる特徴が現れている。男性は200万円以下に頂点がある（表11）（図9）。



・事業団に加入した理由、そして今の仕事に対する意識

1. 事業団に加入した理由と働き続けている理由

「加入理由」と「働き続けている理由」についての回答はほぼ同じパターンを示した。「何となく」「その他」以外は後者の微増である。総合で第一位は「生計の維持のため」が半数を超えている。が、福祉・介護では「社会に役立つから」が理由のトップで4割台の人がこれを挙げた（表12）。

2. 仕事をしていて良かったと思うこと

この回答にはセンター事業団とその組合員の特徴が現れていると言えよう。

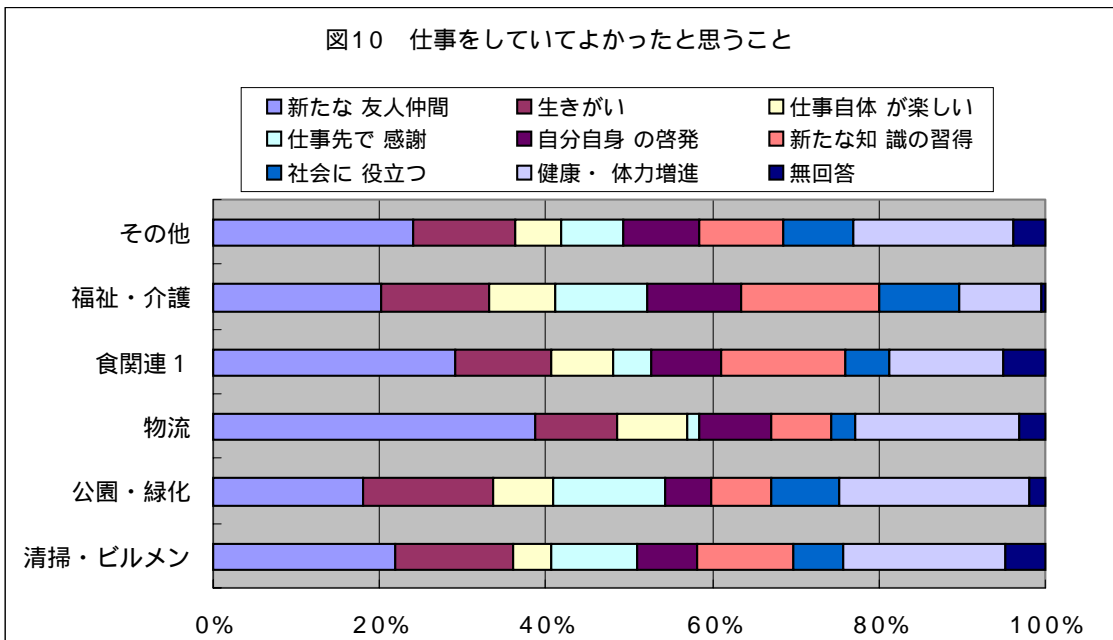
一番高かった項目は「新たな仲間ができた」こと、女性では半数以上がこれを挙げ、職種別では物流と介護・福祉で半数以上が挙げている。年代別には若年層ほどこの項目は高い。

二番目に高い項目は「自分自身の健康や生きがいづくり、体力が増進した」で、ほぼ3割を得た。この項目は高齢になるほど高くなり、60代で4割を超え、70代以上ではほぼ半数の人がこれを挙げ、特に公園・緑化と食関連、その他では他の項目を抑え最高得点を得ている。

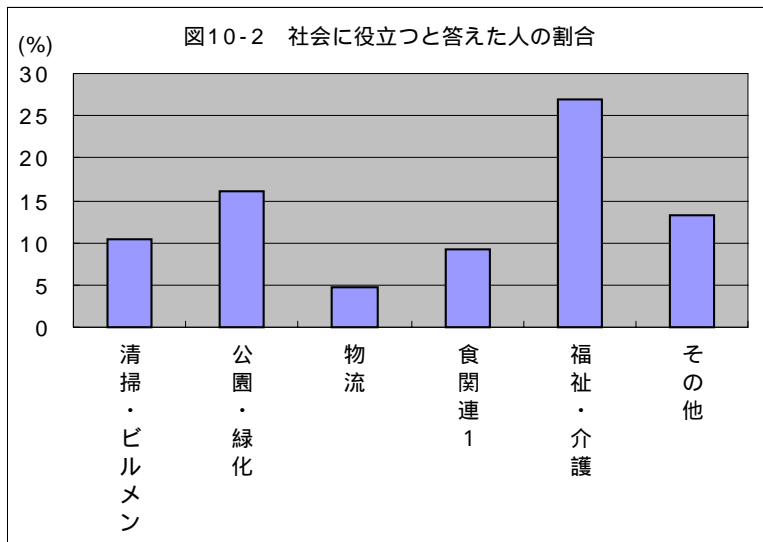
三番目は「自分自身の生きがいを得ることができた」で、総合では2割強である。職種別には公園・緑化、福祉・介護の分野で3割以上の比較的高得点が見られ、物流、食関連、その他で2割を切って他に比べて低い（表13）（図10）。

ここで総合では1割強の得点で、選択肢中最低の「社会のために役立つことができた」について職種別に見てみよう。最高は福祉・介護の27%、次いで公園・緑化の16%で、最低は物流

図10 仕事をしていてよかったと思うこと



の5%である。仕事・サービスの成果が具体的に見え、利用者との関係が近い職種では、その



努力如何で比較的高い得点が生まれるといえる(図10-2)。

これについては次項の(3-問5)「センターで働いて良かったと、普段から思う」「時々思う」人が理由に「社会のことに目が開かれる」を挙げた比率を、職種別に見てみると、最高は福祉・介護の29%、次いで公園・緑化12%、最低が物流6%となっているのと同様である。

### 3. 働いて良かったと思うか、その理由

「普段から思う」「ときどき思う」で75.8%を占め、「ほとんど思わない」「思ったことなし」が19.7%である。特徴的なのは70代以上の56.3%の人が「普段から思う」と答えていることである(表14)。

良かったと思う理由の第一位は「時間・日数が適当で良い」で半数以上を占めている、順に「自分に合っている」「人間関係が良い」「社会のことに目が開かれる」と続いている。自分の生活や性格、体力に合わせた組合員の働き方が浮かんでくる。さすがに「給与が高い」は0.5%であった(表15)。

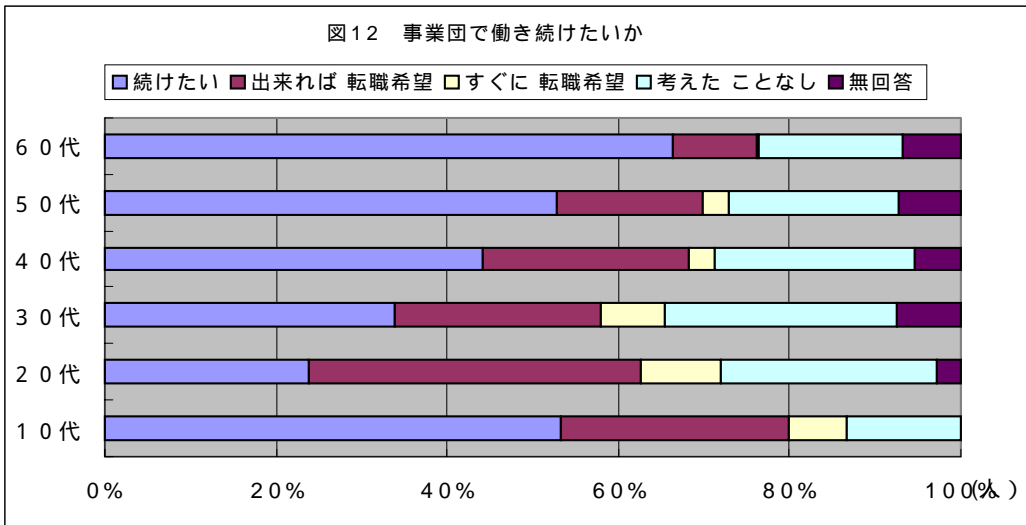
思わない方の理由の回答者は全体の19.2%で、内、過半数の人が「給与が低い」を挙げている。(表16)

### 4. 事業団で働き続けたいか、および事業団以外での就業意思

ほぼ半数の人が「働き続けたい」と回答しているが、年代別の差が大きく、20代はわずか24.3%に留まった。特に食関連では1割にも満たない結果ながら、ビルメン・清掃では半数が「続けたい」と回答している。「続けたい」の回答は年代順に上昇し、50代で過半数を超え、60代の66.4%まで増加する(表17)(図11)。

いまの内容の仕事が今後も続けられるなら、別にセンター事業団に所属していなくとも良いと思うか、すなわち事業団以外への転職意志があるかの質問については「転職意志あり」が約4分の1で、これについては年代別の差がなく、「転職意志なし」は年代が高くなるにつれて増加し、50代以上では「あり」を超える。

職種別には、物流と福祉・介護の約32%の人が「転職意志あり」と答えたのが最高で、最低はビルメン・清掃の約19%である。



・ 仕事環境の意識

1. 現給与の評価は

ここで現在の給与について2つの側面から聞いた結果を紹介する。第1の質問は「あなたは、働きに応じた給与が支給されていると思いますか?」、第2の質問は「あなたの職場の経営状況から判断して、あなたの給与をどのように評価しますか?」である(表18)。

総合で見れば、「働きに応じて」の評価は「少し少ない」が回答分布状のモード(最頻値)であり「平均値」にもなっているが、「経営状況からの判断」では、全体として「十分」側の

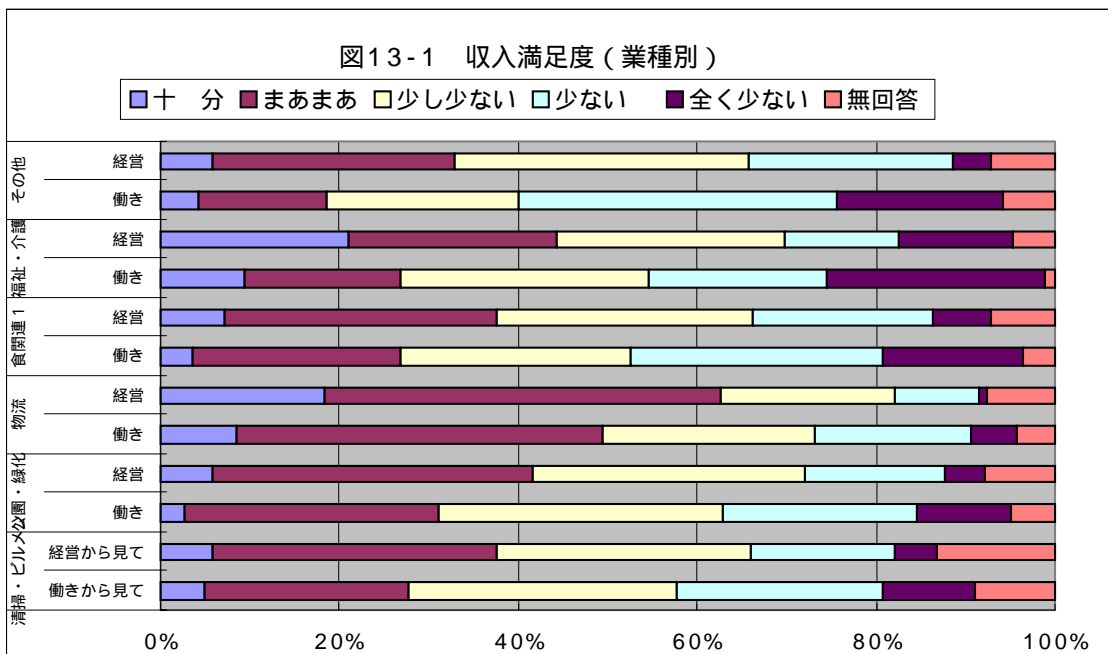
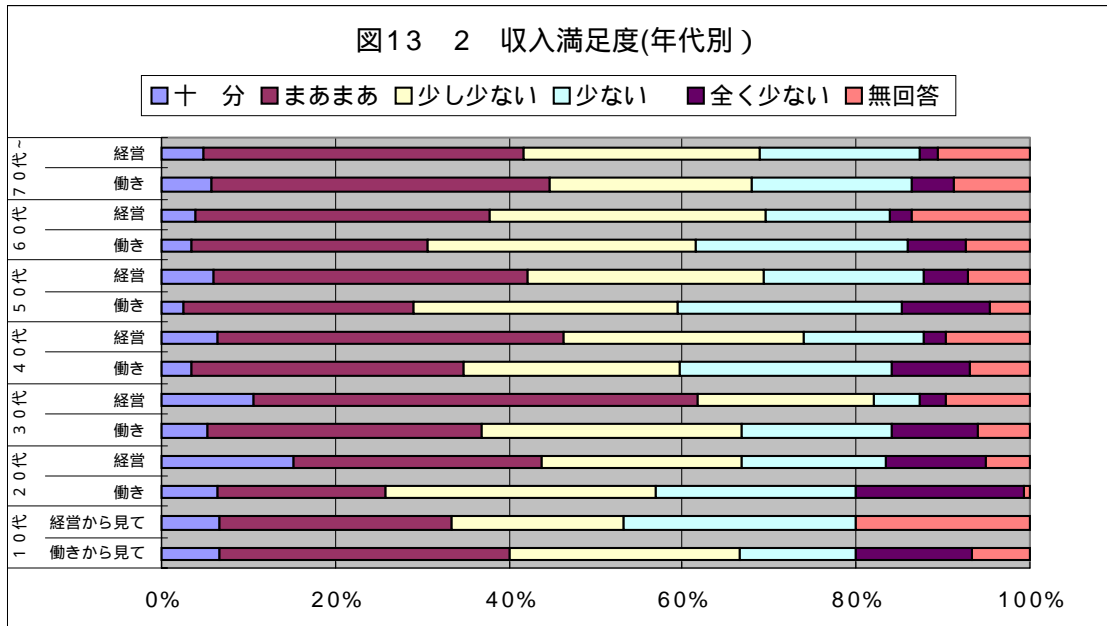


図13 2 収入満足度(年代別)



方にシフトし、「まあまあ」を最頻値にして平均も「少し少ない」から「まあまあ」の方に近づいているのが見える。

もちろん職種別に違いが出ている。公園・緑化の「働きに応じて」の評価は「まあまあ」を最頻値に、これと「少ない」に二分化しているが、「経営状態からの判断」では「少し少ない」に集積している。福祉・介護は「まあまあ」が最頻値で他の職種より高い数値になっていて、経営状況からの判断では「十分」「まあまあ」側に更にシフトしている。(表18)(図13-1)

年代別に見るとまた違った特徴が見える。70代以上では働きに応じてより経営状況からの判断の方が「少ない」側の答えが増えた。一方で、20代・30代は「十分」の答えが他の年代に比べ高い数値を示し、その傾向は経営状況からの判断でさらに増幅されている。とくに30代では、経営状況からの判断においては「十分」「まあまあ」合わせて6割、「少ない」と答えたのは他の世代の3分の1の比率である。優しいのか諦めなのか、何とも複雑な感想である。(図13-2)

## 2. 職場で “自分はなくならない存在 ”

職場で “自分はなくならない存在 ” と思うかの質問に対しては「思う」25.3%、「思わない」20.3%であるが、「分からない」+「無回答」が54.3%と半数を超えた。この質問には周りの仲間が分かっている側面が強いと思われるので、疎外感の問題とともにコミュニケーション問題の一つと見ることができる。いずれにしても「協同労働」の場では、本来は全員そうなることが理想であるが、当面、「思う」人が半数を超えることに目標が置かれよう(表19)。

職種別に見ると、ビルメン・清掃(是30.1%、不是16.6%)が最高を示し、次いで福祉・介護(是28.3%、不是17.5%)である。逆転しているのは唯一物流(是20.9%、不是25.1%)であ

る。

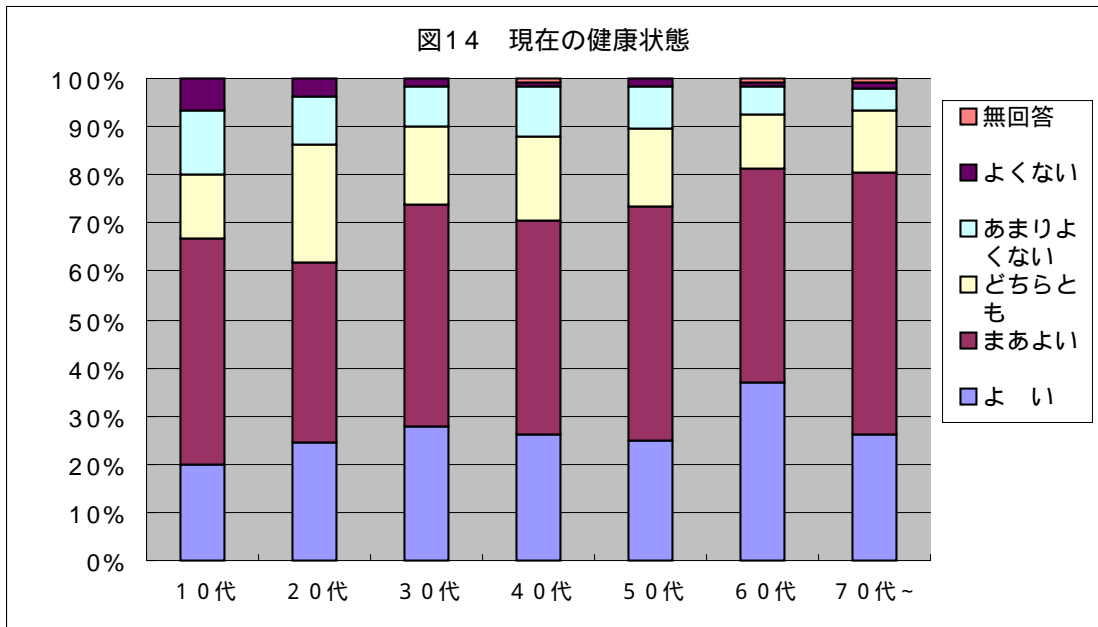
男女比較では男性の方が“自分はなくてはならない存在”と思っている比率が高い。

・健康、老後、介護、子育て、ストレスと悩み

1. 健康状態と健康意識

健康状態、体力についての回答を見ると、統計上は高齢者の方が若者より元気であるとした。若年になるほど健康状態が「あまり良くなく」、体力に「自信ない」が増加するという傾向が見える。この傾向は女性に比べ男性に顕著に現れている。「若者よ、どうしたんだ、どうなるんだ！」と言いたくなる結果である(表20)。

もっとも、気になる持病を持つ人は若年層ほど少なくなる(表22)し、健康状態、体力の世代間を共通指標で検査している訳でもないので、個々人の自主判断(往々にして同世代での比較)での回答である点を踏まえてはならない。それでも、基本的に若者は「自信のない」傾向が多く現れていると言えよう。それに比して高齢層は同世代と比して、働いている「自信」の現れか。(図14)



健康に注意を払っているかの質問では、「はい」が20代の24.3%を最低に、世代順に上昇し、50代で半数を超え、70代以上では4分の3に達する。一方で「特に健康に留意していない」(おそらく元気な)70歳以上の高齢労働者が8.7%存在する。

健康のために実施している内容を聞いたところ、前記健康に注意を払っている人の約半数が「規則正しい食事」と「バランスのとれた食事」を挙げた。別の設問で「普段から食事や栄養に気を付けている」人は全体の3分の2であった。ともかくも食であるが、これには男女差が

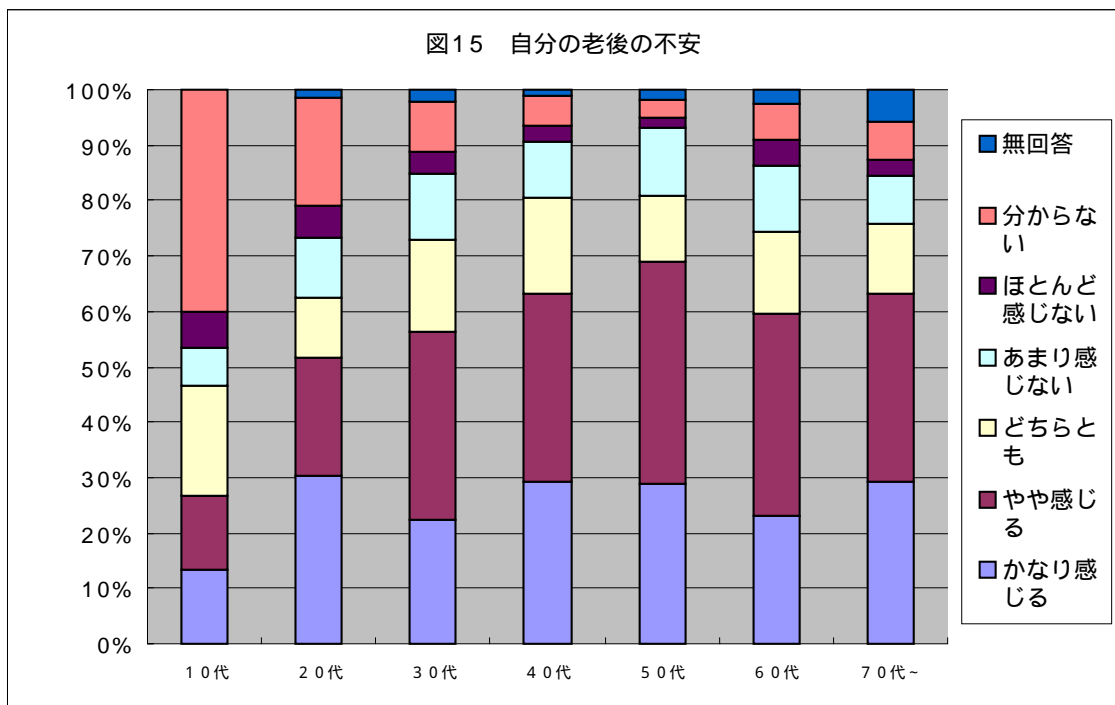
現れている。続いて小差で「十分な睡眠」が続き、「たばこを吸わない」「うす味」と続いている。「スポーツ・運動」比較的下位に位置している（表21）。

（健康注意も年代別100%累積棒グラフで。健康の実施は単純棒グラフ）

持病については50代以上では3割を超えた人が「ある」と答え、70代以上で4割弱である。アンケート回答からの5大持病は、高血圧、腰痛、糖尿、胃腸、喘息であった。一方で持病の中には、その辛さがなかなか他人に理解されないもの、難病と言われるものが結構ある。「協同労働」には、そういう点での思いやりが大切になってくる（表22）。

## 2. 自分の老後の不安と理由（3つ）

自分の老後の不安を感じている人は「かなり」「やや」合計で61.8%、「あまり」「ほとんど」感じない人は14.5%である。ただし、若年層に「分からない」が多いのは当然か（表23）（図



15)。

不安内容のトップは「老後の収入」で全体の41.7%に及び、僅差で「自分の健康」(39.5%)が続いている。これが二大不安、第一グループということになる。ポイント数は半分に減るが、第二グループは「配偶者の健康」(19.1%)、「自分や配偶者の寝たきり・要介護状態」(15.9%)、そして「一人暮らし」(7.4%)である（表24）。

年代別に見ると、20代から半数以上が不安（「かなり」「やや」）を感じ、50代が頂点である（69.1%）。不安を感じる理由としては20代から50代まで「老後の収入」が一番の項目で、50代では全体の半数の人49.4%が挙げ世代中トップである。同時に自分の健康でも50代が46.1%で70代以上を僅差で抑えて最高である。「悩める団塊世代」ということになろうか。

### 3. 親の介護に関する不安

\* 親の介護についての不安の程度について質問したところ、不安を感じる人(「かなり感じる」+「やや感じる」)の割合は、若年層から順に増加し、40代の約6割をピークにして、高齢者になるに従って順に減少する。「親はいない」が50代で28.4%、60代・70代以上で各々55%であること、何らかの理由で無回答が増加していること(60代13.6%、70代以上32.0%)により、不安と回答した比率が全体から見れば下がっている(表25)。

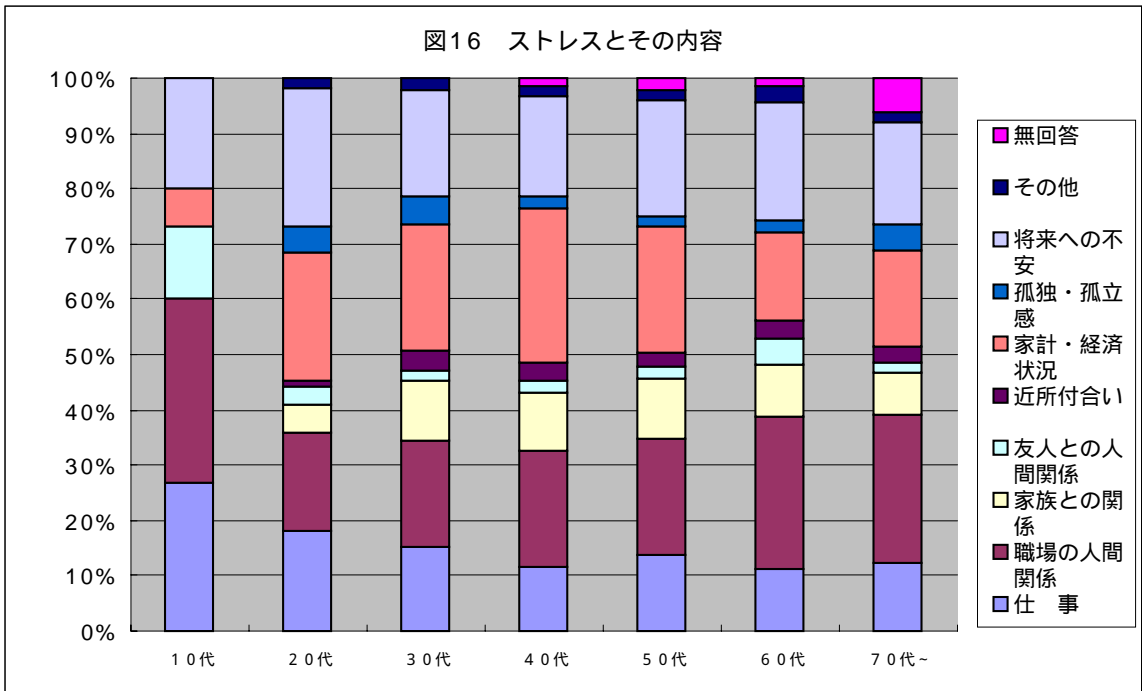
### 4. 子育ての悩み・不安

子育てについての不安は、やはり現実に子供がいる人達での比率が高いと言えよう。この設問でも40代が最も高い回答を示した。そして前設問と同様に高齢者層の無回答比率が高くなっている(表26)。

(なお、若年層では、今子供がいなくても「子育てというのは不安だ」についての選択肢が必要であった)

### 5. ストレスとその解消法

男女とも約65%の人が仕事や暮らしでストレスを感じている。年代別に見ると20代から50代までの「ストレスあり」はおしなべて7割以上であるのに対し、60代以上では5割を切っているのが特徴である。最高の30代(81,2%)と最低の70代以上(41,7%)とでは実に2倍の開きがある(表27)。



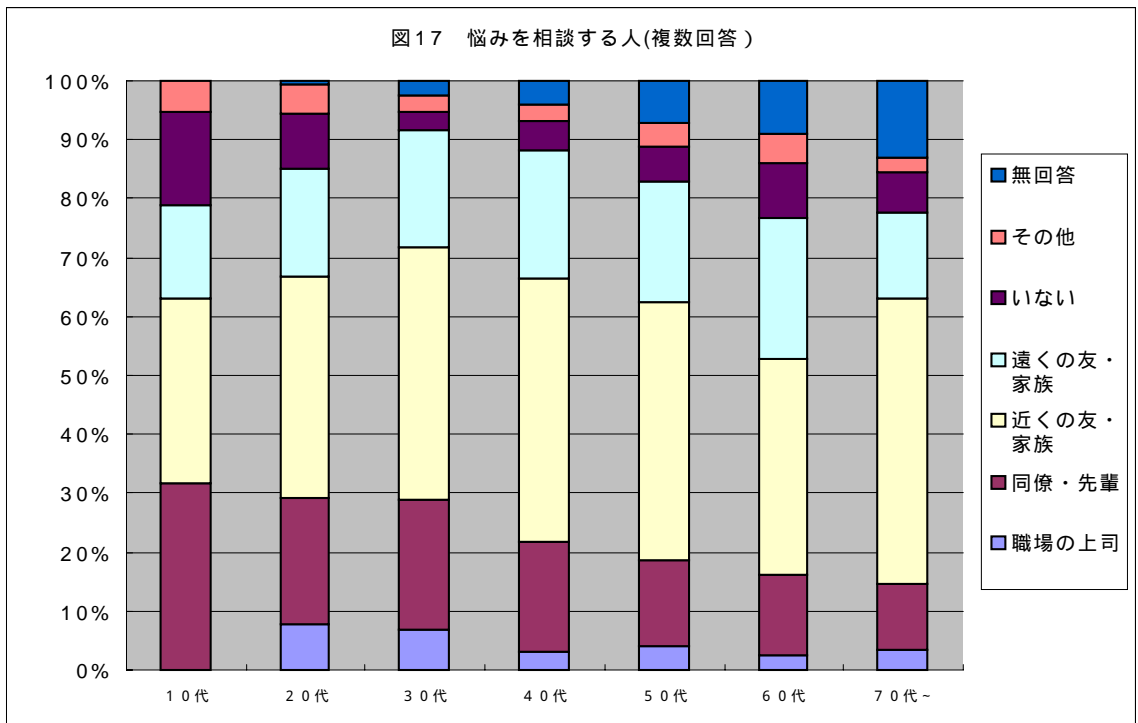


三大ストレスは「家計・経済状況」「職場の人間関係」「将来への不安」である。三大ストレスは各々で全体のほぼ4人に1人が感じている。これに続くのが「仕事が思うようにいかない」「家族・親類との関係」で1割台の人が感じ、他は数%以下であった。

先の三大ストレスについて年代別に特徴を探ってみると、「家計」は20代・30代・40代で「ストレスあり」のほぼ5割が挙げているのに対し、60代・70代以上ではその半分に減少している。「将来」についても若年層に不安比率が高いのが見える。それに対し、「職場の人間関係」は「ストレスあり」のほぼ4割前後が各年代共通して挙げている。「職場の人間関係」は各年代でストレスのほぼ4割を占めるという点で「ストレスの共通定番」とも言える(図16)。

男女別に見ると、先の三大ストレスの中で特徴的なのは、「将来への不安」であろう。女性(19.7%)と男性(29.3%)とではほぼ10ポイントの開きがある。また、女性の30代では「家族・親類との関係」(23.7%)が高くなり、「将来への不安」(21.1%)を僅差で抑えて第3位となっている。

ストレスの解消や気分転換をどうしているかについては、男女差が良く現れている。女性では「人と話す」が断トツで33.9%、これはストレス「あり」(65.6%)の半数が挙げた。続いて「よく寝る」、「レジャー・遊び」で各々1割以上の人が使っている。女性の中では「飲みに行く」が30代以下に多く、40代以上とは明確に分かれている。一方男性は1位が「レジャー・遊び」で、「よく寝る」「人とはなす」「飲みに行く」が1割以上で続いている。女性のような「特徴的なストレス解消法・気分転換」は見られない(表28)。



## 6. 悩みの相談相手

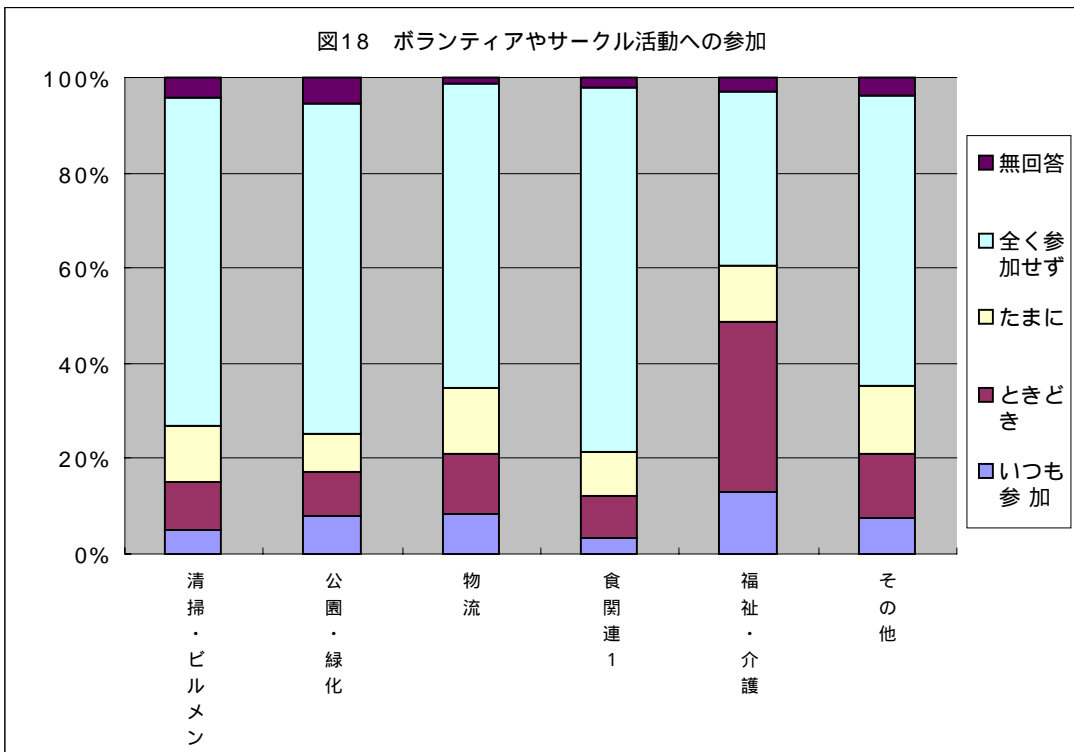
困ったときや悩んだときに相談できる人はどんな人か(複数回答可)の設問には、51.9%が「近隣・近所の友人・家族」を挙げた。次いで26.0%の人が「遠くの友人・家族」、20.7%が「職場の同僚・先輩」を挙げている。相談相手は困ったことや悩み事によって変わるのが一般的と思われるので、数字(%)の差はさほど大きな意味は持たない。仕事上解決しなければならないことは「職場の上司」も相談者の対象となると思われるが、これは5.1%である(表29)。

全体としてみれば「相談できる人はいない」と答えたのは8.3%で、男性の方がこの率は高かった。もちろん悩みとストレスとでは性格を少々異にするが、先のストレス「あり」が最高の30代は「相談相手がない」については最低であった。同じ「いない」でも、試みて「いなかった」場合と、「相談することもない」と考える人もいるかも知れない。(図17)

### ・ 組合員と地域社会

#### 1. ボランティアや地域活動

ボランティア趣味のサークルなどの活動についての回答は、「全く参加していない」が6割を超えているにも関わらず、職種別の差が激しいのが特徴である。福祉・介護では何らかの形で参加している人が6割になっていて、参加・不参加の割合が他の職種と逆転している。なお、年代別には高齢になるほどボランティアへの参加が増えているのが見える(表30)(図18)。



参加の仕方では、「いつも参加」が総合で7.0%で年代別の特徴はさほど見られないが、「ときどき」「たまに」は40代以上で急増する。これは、女性が自分の時間に合わせた参加の仕方をしているのが大きい。男性も60歳以上ではこのような参加の仕方を選択している(表30)。

全体として参加者が少ない中でも、活動内容の上位は、地域行事の世話(8.9%)、健康・スポーツ活動(7.7%)、趣味のサークル(7.4%)、高齢者を対象(6.3%)、環境関連(5.6%)等々であるが、福祉・介護分野では高齢者に22.6%が参加し、地域行事の世話に15.6%、環境関連8.0%、趣味・健康も各々7%台と、活発な活動が見えている。

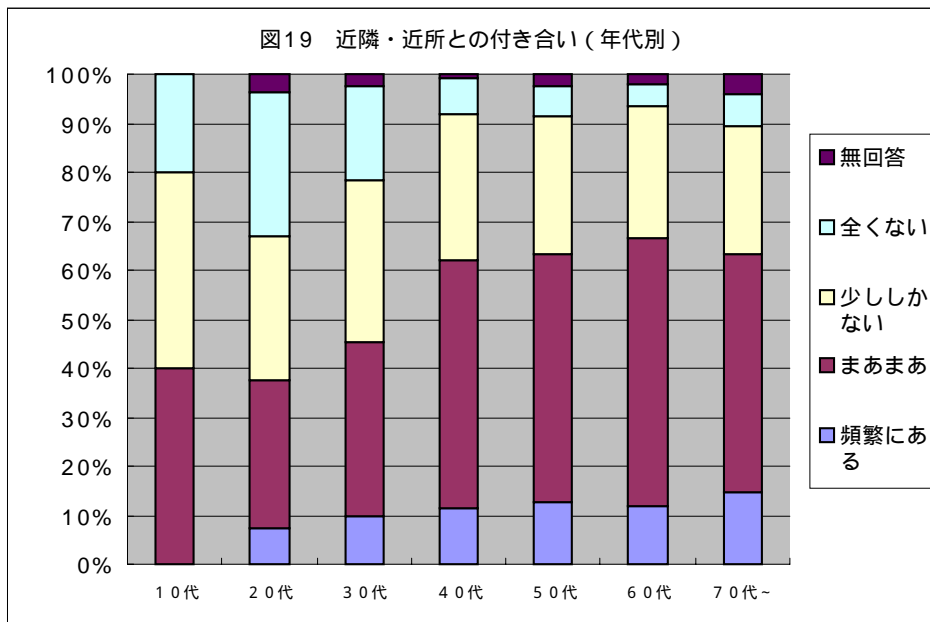
活動に参加して良かったと思うことには、約3分の1の回答者の中で、「新たな友人や仲間ができた」が断トツである。次が「生きがい」、「健康・体力増進」である。「活動先からの感謝」が以外と低いのが気になった。当然のことをしているからと気にしないのか、どうかは分からない。なお、設問でボランティアと趣味を一括りにして聞いたが、これは分けるべきだった(表31)。

## 2. 近所とのつきあい、地域コミュニティ

近隣・近所とのつきあいの頻度では、おおよその見方をすると、30代以下と40代以上とで二分されている結果である。そして全般に(予想通りに)「女高男低」傾向が見える(表32)。

40代以上では総じてこう言える。「頻繁にある」が1割を超し、「まあまあ」が半数なので、6割以上が世間並みにつきあっていると評価している。またつき合いは「少ししかない」が3割で、「全くない」が1割以内(4.2%~7.5%)となっている。

30代以下では、「頻繁にある」が1割以内になり、「まあまあ」が3分の1程度となって、「少ししかない」が3割でこれは40代以上と同様であるが、「全くない」と答えたのが10代18.9%、20代29.3%、30代19.5%と、ほぼ4倍以上に膨れあがる。(図19)



職種別には福祉・介護と物流が相対的に高得点である。福祉・介護と物流とが「頻繁」「まあまあ」で3分の2程度を占めて高得点を挙げているが、年代別特徴では物流が先の特徴(30代以下と40代以上の二分化)を踏まえ

ているのに対し、福祉・介護ではその二分化があまり現れていない。

上記の「頻繁」「まあまあ」と答えた人たちのつきあいの程度・濃さでは、「あいさつ程度」、「町内会・PTA程度」が各々2割強を占め、「家族ぐるみ」が1割強、「一緒に旅行」が5%強となっている。とくに、40代では「町内会・PTA」が3分の1程度に跳ね上がっている。女性だけ見ればこの項目は40代(35.6%)のみならず30代(27.6%)も高いのだが、男性にはこの特徴は特に見られない。これは「町内会」もさることながら子供の「PTA」関連の影響が大きいと思われる。

全般に、決定的ではない範囲での「女高男低」ではあるが、下位に挙げられている「一緒に旅行」を見てみると、それは決定的である。「中高年の女性どうしの旅行、置いてきぼりの亭主は家でごろごろ」が目につく。

自分の地域に助け合いや支え合いの関係(コミュニティ)は残っているかの質問に対し、「思う」4割、「思わない」2割、「分からない」「無回答」で4割といった別れ方をした。「思う」について比較的高いのが40代(47.8%)、50代(46.3%)、70代以上(48.5%)である。「分からない」が若年ほど高くなるのは、つきあい程度の関係で理解できる(表33)。

### 3. 職場、近隣・近所以外の友人

職場、近隣・近所以外で、今も続いている友人関係とはどういう人達であろうか。学校の同級生・同窓生、僚友、元職場の同僚・先輩・後輩、運動や活動、講習会等で知り合った仲間、はたまた初恋の人など、いずれにしても多くの人が様々な友人を持っている。

これについては、「ある」(82.2%)が圧倒的に多く、「ない」(14.1%)、無回答(3.7%)である。年代別に大きな差は見られないが、70代以上は10ポイント程度他の年代より低い数値が出ている(有71.8%、無24.3%)(表34)。

職種別に「あり」を見てみると、福祉・介護では90.6%となり最高である。次が食関連の84.2%、物流と続き、最低でも公園・緑化の74.7%である。

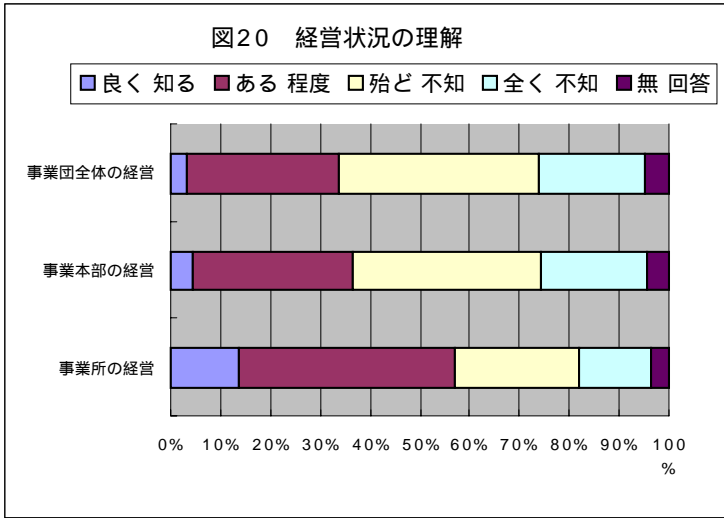
この項目にも男女差が出て良いだろう(「女高男低」)。年代別に見た「友人あり」男女差の大きいのは、30代(女性92.1%、男性71.9%)、70代以上(女性78.0%、男性66.0%)で、女性のよりしなやかさが見て取れる。

## ・労働者協同組合(事業団)の事業経営に関する意識

### 1. 経営状況を知っているか

経営状況を知っている割合は、さすがに自分の所属する事業所については相対的に高く、経営状況を知る割合は、「良く知っている」「ある程度」合計で57%となっている。事業本部、事業団全体の経営状況を知る割合は3分の1程度である(図20)。

職種別に見れば、介護・福祉分野が圧倒的に高い認知度を示し、自分の事業所の経営状況については3割ほどが「良く知っている」と回答し、「ある程度知っている」を含めると76.4%に上った。同時に事業本部や事業団全体の経営状況認知度も相対的に高い。逆に最も低いのは



食関連である (表35)。

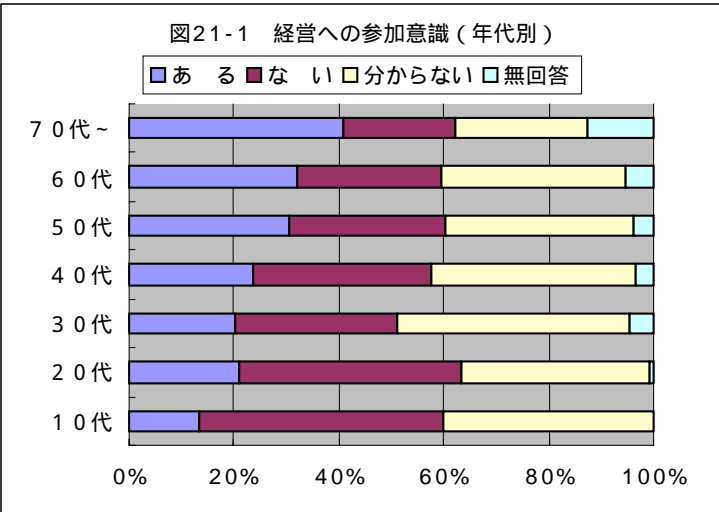
男女別には男性の経営認知度が相対的に高い。特に男性30歳代の認知度は注目されて良い。

## 2. 組合経営への参加意識

「労働者協同組合の経営に参加しているという意識や実感はありますか」の設問に対し、「ある」と答えたのは全体では28.2%であった。これは、「ない」の30.5%に負けている。このままでは労働者協同組合 (= 協同労働の協同組合) の将来としては致命的とも言える結果である (表36)。

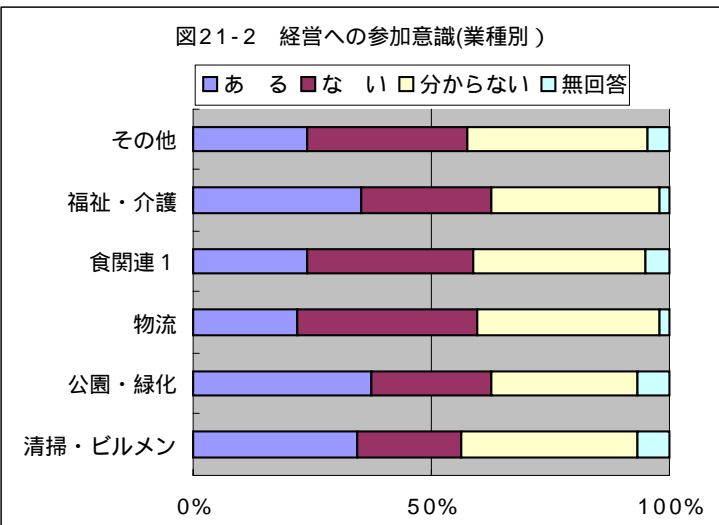
参加の意識や実感の「ある」人たちの比率は高年齢世代で高くなる。30歳未満は20.0%であるが、年代が上がるにつれて順に高くなり、50代以上で「ある」が「ない」に対し優勢になり、70代以上では「ある」が40.8%になる。それでも、まだ過半数になっていないと見るのが妥当であろう。

(図21-1)



職種別では、ビルメン、公園・緑化、福祉・介護が「参加意識ある」35%前後で、「ない」より優勢、しかし、物流、食関連、その他が「参加意識ある」20%台前半で、「ない」に10ポイント以上負けている。

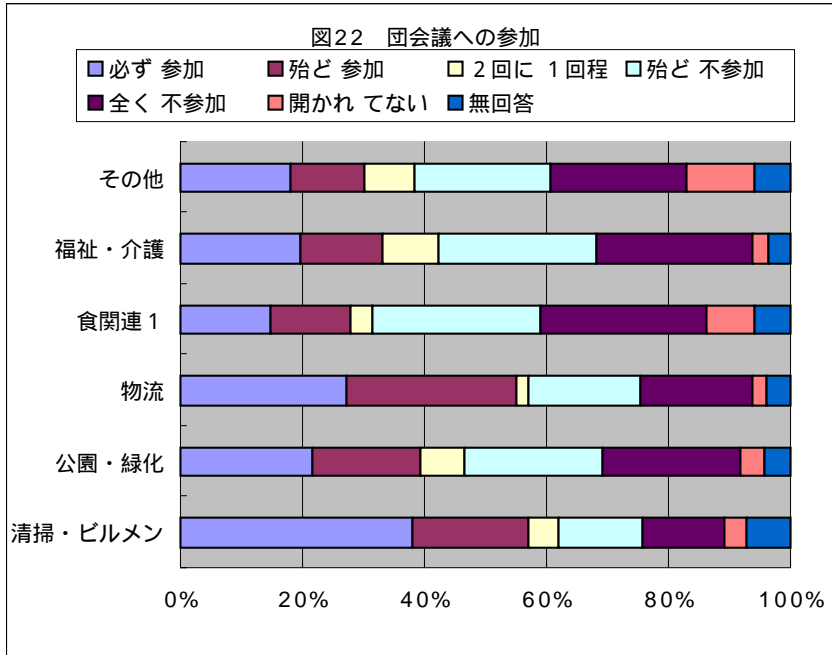
(図21-2)



## 3. 「協同労働」の機関会議 - 団会議への参加意識

【10人の事業所の平均的団会議

像～「お客さんの多い団会議」】10人の事業所を見たとき、回答の集計結果からは、団会議は常時欠席（「蚊帳の外」）2～3人、比較的発言する人3人、出席しても発言しない人（「お客さん」）3人、たまに質問1～2人となる。特に30代以下は半数近くが団会議で発言していないという結果が出た。まだまだ「蚊帳の外とお客さんの多い団会議」である。団会議は「協同労働」の機関会議として志し高く改善する必要がある。



「協同労働」の機関会議として志し高く改善する必要がある。

まず、団会議への参加を見る。

団会議への参加では「必ず参加+ほとんど参加+2回に1回参加」(=参加)が60.7%であるが、不参加25.9%はちょっと多すぎるのではないだろうか。調査アンケート回収率も勘案すれば、この不参加率はもっと高くなると推測される。なお、参加

の最高値はビルメン・清掃の71.8%、最低値は食関連の43.4%である。「不参加率」を見ると、食関連(37.7%)、福祉・介護(34.3%)が高い数値を示した(表36)。いずれにしても団会議に参加せずして事業所・事業団のこと、仲間のことは実感を持って理解はできないであろう。(図22)

次に、団会議への参加の主体性を見る。

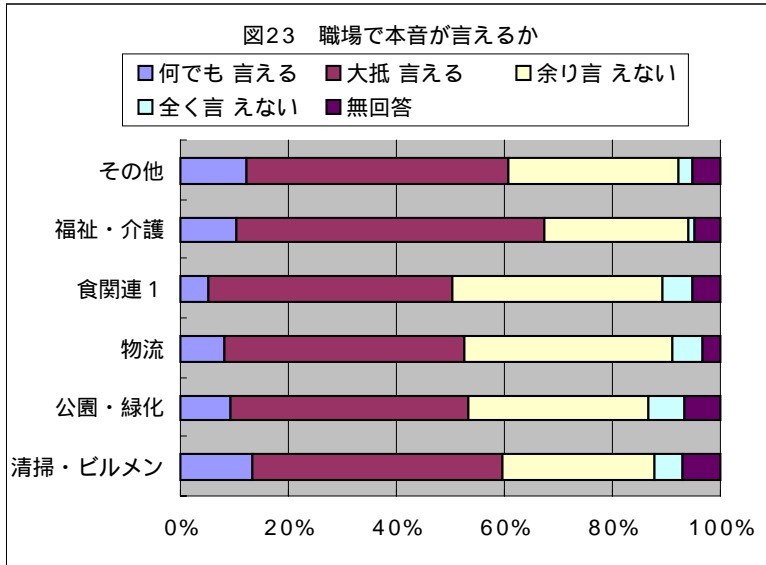
全体的に見れば、団会議で「毎回発言」すると答えた人は10.0%、「ときどき発言」と答えた人21.0%、「質問程度なら発言」する人17.9%で、約半数の人が会議では何らかの発言をしていると回答した。「毎回発言」と「ときどき発言」を合わせて3割程度というのは、様々な要因があると思われるが、やはり少ないと言うべきであろう(表37)。

なお、「毎回発言」と答えた人の多かったのは、福祉・介護の18.4%、男性30歳代の21.1%で、表37の中ではダントツに目立つ。これが先の前述項目「経営状況の理解」(の1)で特記したグループと一致しているのは偶然ではなかろう。ものごとの理解は一方的ではない双方向のコミュニケーションで進むという例証になる。

ということは、「発言のくせを付ける」ための配慮と工夫、誰でも会議で1回は発言するなどの工夫はリーダーの重要な役割でもある。もっとも、「何を決めているのか分からない」とか「会議で決めても実施が曖昧」ということで職務上の会議がサロン化ないし不活発になっていないことが前提であろう。

#### 4. 職場の民主的風土・雰囲気認識

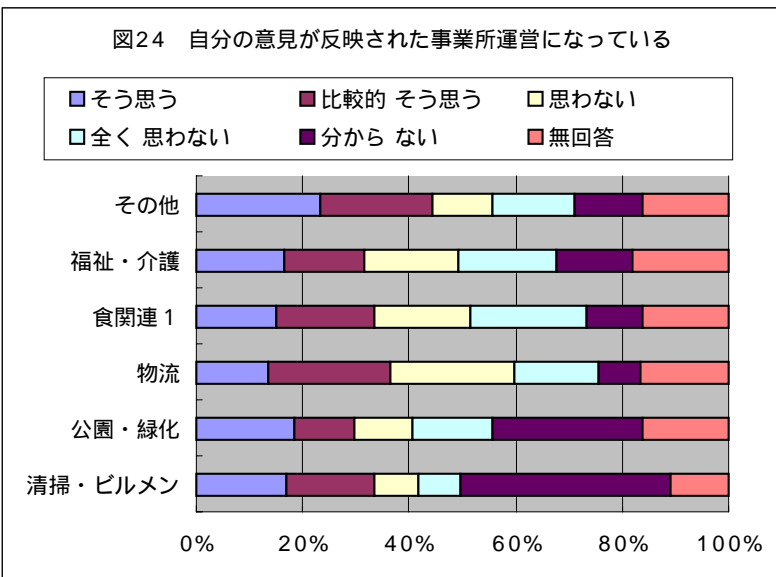
過半数の組合員が「本音が言えるし、よく話し合っている」と見ている。すべての職種と全年代でほぼ半数を超えていてぎりぎりの合格点とも言えるが、「本音は言えない」と思っている組合員が37.5%、「話し合っていない」とする組合員が29.4%の現実



の将来を見据えたら、その減少に向けて大いに挑戦するべき課題であろう(図23)。職種別では、福祉・介護と清掃・ビルメンが「何でも本音を言える」と答えた割合が多かった。男女では男性の方が相対的に高い数値を出した。それはすべての年代を見ても同じ傾向である(表38)。なお、この表では、経営に高い理解度を福祉・介護とともに出した男性30歳代が男性の中で

は最も低いグループに位置している。

一方で、「あなたの意見が反映された事業所運営がされていると思いますか」の設問に対し、「そう思う」「比較的そう思う」合計は25.9%であったが、「思わない」と「全く思わない」の計が30.3%と否定的認識の方が優位である。職種別に見ると「そう思う」「比較的そう思う」



合計割合は福祉・介護の47.1%が最も高く、清掃・ビルメンと共に「思う」方が「思わない」方より優勢である。一方で、公園・緑化、物流、食関連については「思わない」の方が圧倒的に優位である(図24)。「思う」方が明らかに多かった年代は30歳代男性(これは前述のように福祉・介護とともに高い経営理解度のグループ)と50歳代女性である(表39)。意見の反映には公式な

場、すなわち事業所会議等での発言（と議論）が必要であると言えよう。

もっとも、「自分の意見の反映」は経営の制約・自主性の度合い（Ex. 委託と作業との関連）にも関係があるので、一概に意思決定の民主的手続きとしてのみ評価することはできないこと留意する必要があるろう。

## 5. 事業計画作りへの参加と内容理解度

事業計画作りに少しでも参加している意識のある組合員は全体で24.8%、ほぼ4人に1人である。原則の一つ「全組合員経営」、また「本物の事業計画」の出発点でもあるので、大いに改善は必要である。職種別には、福祉・介護分野の計画づくりへの参加度が群を抜いて高いが、それでも、「参加」「少し参加」計で49.5%とぎりぎり半数である。年代別には30歳代男性がやはり相対的に高くなっている（表40）。

事業計画の内容をある程度以上理解していると回答した組合員は43.2%である。事業計画それ自体「読んでいない」「配られていない」（計1割以上）というのは民主主義以前の問題ではあるが、ほとんど解らない36.0%を減少させることは内容説明とともに学習会等で対応する戦略的課題となるろう。

## 6. 運営への正統的積極的参加こそ最大の学習機会

この章の分析の中でたびたび福祉・介護グループと30歳代男性グループが引き合いに出された。経営状況の認識度・理解度と経営参加・団会議での積極的な発言とは一定の関連があると見える。前項で学習会の提起をしておいたが、実践の場における最大の学習とは運営に正統的に（組織の意志決定をする機関等に）積極的に（意見や疑問があってもなくても発言・議論を通じて）参加することにある。参加型民主主義の機関運営は手っ取り早い意思決定にはならないかもしれないが、必ずしも非効率な方法ではない。このことを、このグループは教えているのではなからうか。

### ・組合員の自己研鑽、学習・教育研修について

#### 1. 習い事

過去5年間のうちで、「習い事」や「教室」「学校」等に通ったり、「通信教育」などを受けたことがありますかの質問に460人（28.9%）が「はい」と答えている。内、内容記入者は404人で、内167人が複数回答し、3つ以上は76人、4つ以上が29人、5つ以上13人、枠一杯6つ記入が5人いた。

最も記入の多かった内容は「ヘルパー講座」の102人（2級、3級のダブルの人含む）で、次いで「IT・パソコン関係」の66人、以下「書道・習字」35人、「ダンス」19人、「生け花」17人、「英語」17人、「水泳」12人、「手話」10人、「絵手紙」9人、「気功・ヨガ」「カラオケ」各8人等々が主だったものである。なお過去5年間には高校生・大学生で、そのみの記入が2名である。「造園」「福祉用具相談員」や「ゴルフ」等も複数回答があり、多彩な習い事・学習



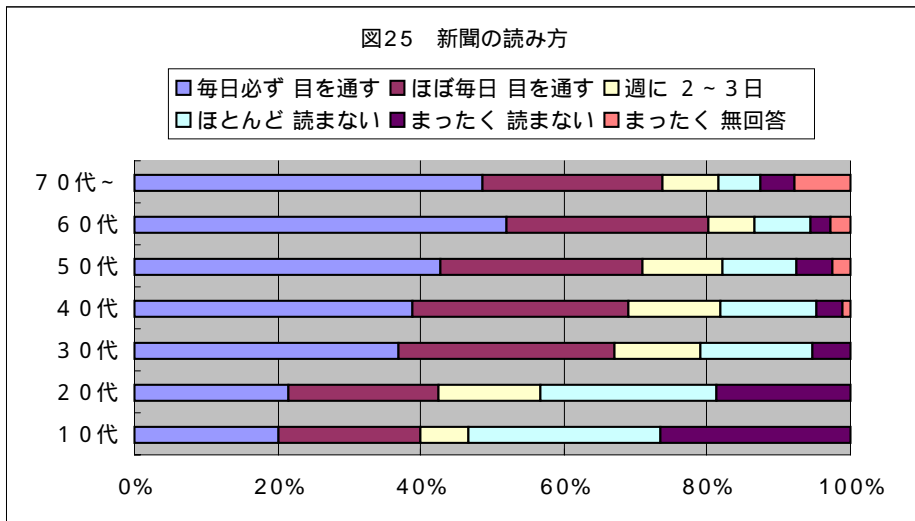
の実態が見える。その内、資格取得になっているものは前述したとおりである。

過去5年間に「習い事」等を受けたことのなかった人(1055人)に今後の決意を質問した結果、内訳は「今後勉強してみたいと思う」が37.3%、「思わない」26.7%、「分からない」24.6%、無回答11.3%であった。ぜひ「人生、生涯が学習である」との気概で全員が挑戦して欲しいものである。

ここに4個以上の講習等を受けた人(29人：ほぼ1年にひとつ位の講習等を継続して受けていると見られる)の中身と月額費用について一覧表を示す。特徴は多彩であること、月額費用は最高でも3万円以内であること、である。(別記資料2)

## 2. 読書・情報収集・IT

一般新聞にどのくらい目を通しているかの質問に「毎日必ず」「ほぼ毎日」と答えたのは全体で69.5%、ほぼ7割である。一方で「ほとんど」「まったく」読まないが17.5%「も」いる。新聞からの情報収集は職種別の特徴は見出せないが、年代別特徴は「老若若低」と顕著である。高齢層に比べ若年になるほど新聞に目を通していない比率が増え、20代以下では「毎日



必ず」「ほぼ毎日」(計42.3%)と「ほとんど」「まったく」読まない(計43.5%)とにほぼ二極分化となっている。ニュースは新聞からだけではないとはいえ、男女とも若年層の未読数値は高い(表41)(図25)。

単行本や文庫本などの書籍を月何冊読むかの質問には、半数以上が「~1冊」と答えている。これが0冊を含んでいると思われるので、「2冊以上」の趨勢を見ると、10代(50.0%)、20代(37.8%)、30代~60代(28.4%~30.5%)、70代以上(20.4%)と、若年層の方が良く読んでいる傾向が見える(表42)。

なお、集計データから大胆に(「~1冊」を0.5冊などした)平均読書冊数を推計すると平均は<前者全平均(無回答を0冊と見る)-後者有回答平均(無回答を除外する)>

- 総合 < 1.23冊 - 1.50冊 >、
- 10代 < 2.58冊 - 2.95冊 >、
- 20代 < 1.79冊 - 1.95冊 >、
- 30代 < 1.88冊 - 1.99冊 >、

40代 < 1.09冊 - 1.17冊 >、  
 50代 < 1.12冊 - 1.41冊 >、  
 60代 < 1.08冊 - 1.44冊 >、  
 70代以上 < 0.80冊 - 1.21冊 > となり、

俄然「若高老低」が明瞭となる。

冊数は聞いていないが、定期購読の雑誌の有無の回答は明らかに「若高老低」である(表43)。新聞・雑誌・書籍の読書時間(表44)についても、大胆に平均値を推計してみた(たとえば「15～30分」は中位の22.5分と見なした推計)。

< 総平均 - 有回答平均 >

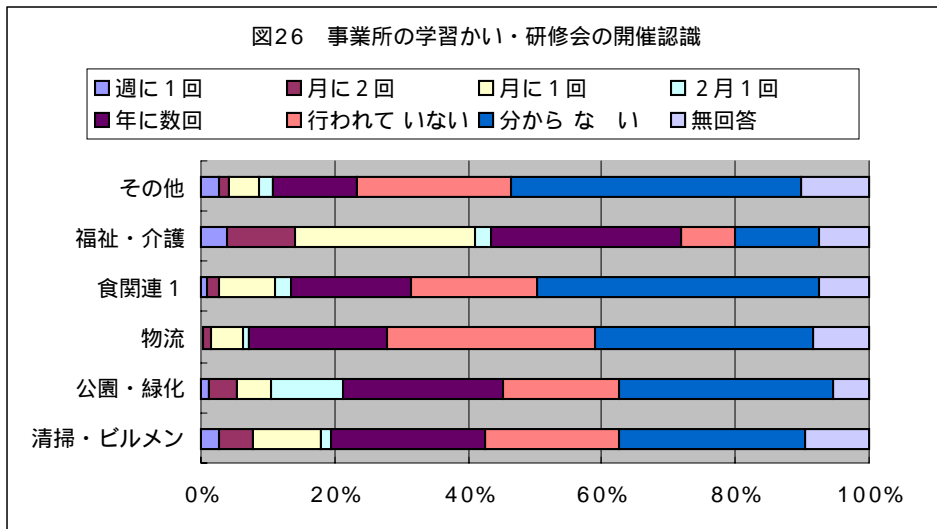
総合 < 28分 - 31分 >、  
 10代 < 52分 - 52分 >、  
 20代 < 35分 - 37分 >、  
 30代 < 24分 - 25分 >、  
 40代 < 24分 - 26分 >、  
 50代 < 27分 - 30分 >、  
 60代 < 31分 - 35分 >、  
 70代以上 < 28分 - 33分 > となり、

10代・20代の相対的長時間と、30代・40代の相対的落ち込みが目立つ。

### 3. 学習会・教育研修企画への参加

事業所で学習会や研修会が、どの程度開かれているかの設問であるが、組合員一人ひとりに聞くということは開催頻度認識を問うたことになる。それを前提に見ていく。「行われていない」が21.0%、「年に数回」が20.7%で、「月に1回」が9.7%となっている。一方で、「(開催頻度が)わからない」の回答が3割を超している(31.6%)。「分からない」の回答が一番高かったのは食関連の42.3%で、最も低かったのは福祉・介護の12.7%であった。また年代別には若

図26 事業所の学習会・研修会の開催認識



年層に「分からない」が多い。企画段階への参加の問題も含まれよう。全体としては、学習会を開催している事業所では、年に数回ないし月に1回が多い(表45)(図26)。事業所で行わ

れている学習会や研修会に参加しているかの設問に対して、「毎回必ず参加」11.2%、「ほとんど参加」18.1%、「2回に1回程度」6.3%であるので半分以上は参加していると答えた人は合計35.6%であるが、「ほとんど」ないし「全く」参加せず36.7%、「開かれていない」18.1%、の回答で、無回答9.6%であった。学習会が自由参加形態であるならば、この参加率は比較的健闘していると言えようが、やはり、不参加が固定化している事態は改善の余地がある。年代別傾向は前項目（開催頻度認識）の様には現れていない。職種別には福祉・介護の参加率が高い（表46）。

事業本部（ブロック）の教育・研修には、22.0%の人が「参加したことある」と答え、センター事業団の全国（本部）の教育・研修には15.7%の人が「参加あり」と答えている。仕事に関する内容で、センター事業団以外の教育・研修への参加は12.9%の人が「ある」と答えている。職種別に見ると福祉・介護が最も高い参加率を示し、低かったのは食関連であった。職種別の参加率の違いは該当する研修会の開催率も影響していると思われる。また、年代別には30歳代男性の参加率の高さが特徴的である（表47）。

#### 4. 労協新聞の認知活用度

日本労協連が発行している「労協新聞」を「毎号必ず読んでいる」人は14.7%、「毎号関心のあるところを読んでいる」人は24.9%、不定期に関心あるところだけ読んでいる」25.9%であり、「ほとんど読まず」21.6%、「一度も読まず」6.8%である（表48）。

世代的には「老高若低」で、高齢者ほどしっかり読んでいるのが見える。70代以上では4分の3以上が何らかの形で「読んでいる」。逆に40代でも3割以上、30代では4割を超え、20代ではほぼ5割が「ほとんどないし一度も読んでいない」。

職種別に見ると、物流、食関連があまり読まれていない一方で、「毎号必ず読む」では、ビルメン・清掃（23.1%）と、福祉・介護（21.2%）が高い数値を示した。何らかの形で「読んでいる」人は福祉・介護が最も高い（計82%）。この手の媒体は記事内容、何が掲載されているかによって読まれ方が変わるとされる。

「労協新聞」の活用では4分の3以上（76.1%）が無回答であった。回答の中では、「団会議で読み合わせ」が一番多く13.4%、「自分で自治体やオーナーに届けている」のは7.0%、「自分が営業・仕事拡大用に使っている」のが4.5%である。活用内容全般にわたって活用度が高いのはビルメン・清掃の分野で、「読み合わせ」20.0%、「届ける」12.3%、「営業」4.0%である（表49）。

#### 5. ホームヘルパー資格、通信教育受講意欲

ホームヘルパー（2・3級）の資格は21.1%が持っており、73.4%（ほぼ4分の3）が持っていない（「資格未保有」と回答した。もちろん、職種別には福祉・介護は82.5%が取得しており、他の職種計では11.6%の取得率である（表50）。

そのうち、「資格未保有」者に更に質問し、本部で準備中のホームヘルパー2級の「通信講座」の受講意思について聞いたところ、「はい」の回答が全体の10.3%（未保有者の14%）、「いい

いえ」が全体の36.1%（未保有者の約半数）で、他は「分からない」と無回答」であった。

## ・協同組合諸制度の認知度と協同労働について

### 1. 事業団の様々な制度の認識・認知度

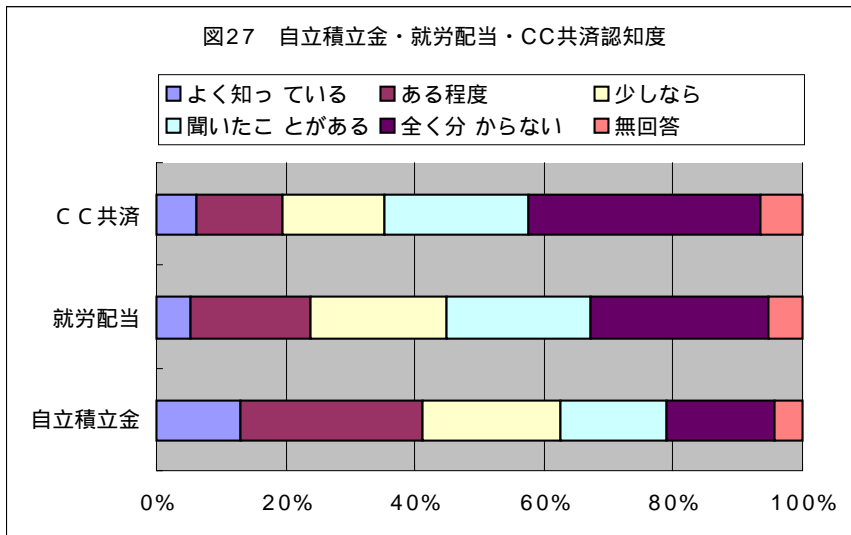
#### 【増資計画と出資】

給与2ヶ月分の増資計画を立て増資しているかの質問には、「はい」が43.5%、「いいえ」が32.6%、「分からない」が17.9%である。年代別には「老高若低」で、とくに「わからない」が若年層に多くなっている（表51）。

#### 【自立積立金、労働配当、CC共済の認知度】

これら3つの認知度比較は、自立積立金 > 就労配当 > CC共済の順である。

年代別認知度傾向は、10代、70代以上を除いて、他の年代ではほぼ同様の認知度となっている（表52、53）（図27）。



### 2. 「ICA :協同組合の定義、価値、原則」と労働者協同組合の新原則」の内容

1995年ICAマンチェスター大会で採択された「協同組合のアイデンティティに関する声明:協同組合の定義、価値、原則」の内容についての認知度は、「良く知っている」0.3%、「あ

る程度知っている」4.3%、「ほとんど知らない」21.9%、「知らない」64.9%、無回答8.1%であった。

「新原則」の投票は今年（2002年）2月に行われ、賛成多数であったが、調査時の2001年10月、11月段階での内容認知度は、「良く知っている」1.8%、「ある程度知っている」13.2%、「ほとんど知らない」21.5%、「知らない」55.2%、無回答8.3%であった。

2つの「原則認知度」と通じて職種別には食関連の落ち込みが目立つこと、物流が相対的に低いことを除けば、ほとんど変わらないと言えよう。男女別には男性の方が高い認知度を示している（表54）。

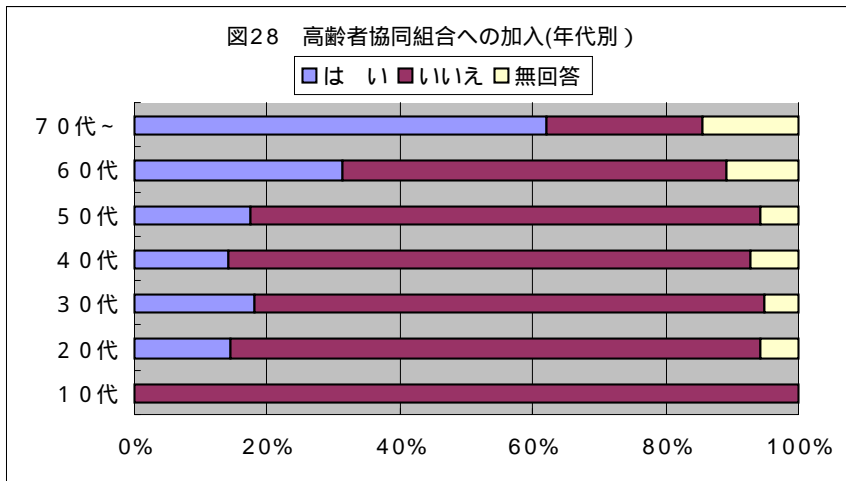
協同組合運営の国際基準である「ICA声明」、自ら働いている職場の運営基準になる「新原

則」の内容認知度としては、なかなか厳しい数値である。

### 3. 高齢者協同組合（高齢協）の加入率、参加度

#### 【加入率】

センター事業団組合員の高齢協加入率は平均で22.8%である。年代別には50代までは10%台の加入率であるが、60代で31.1%、70代以上では62.1%が加入している。加入資格に高齢年齢なる制限は無いのであるが、名前の通り、高齢者の加入率が高いのが現状である(図28)。



職種別に見ると最高値は公園・緑化の49.3%、続いて福祉・介護の36.8%となっているが、公園・緑化は60代以上が8割を占めているのが反映しているだけで、若い方の加入率が高いわけではない一方で、福祉・介護分野では20代~50代の加入率も3割以上と他

の職種分野よりも高いのが特徴である。一方で最も低い職種は食関連であった(表55)。

#### 【地域活動への参加度】

高齢協に加入している人の高齢協地域活動への参加度は、「積極参加」が1割、「少し参加」が2割、というのが全体の傾向である(表55右)。

### 4. 購買生協や医療生協、他の協同組合との関わり

#### 【加入率】

高齢協を除く購買生協や医療生協等、他の協同組合には3分の1(33.8%)の組合員が加入している。年代別には20代以下を除いて各年代とも3割台の加入率になっており、現在のところ高齢協加入率より若干高い。(表56)

職種別に見ると、最も高いのは福祉・介護の45.3%、次いで物流の39.0%、公園・緑化の37.3%で、最も低いのは食関連の17.7%となっている。

### 5. 知人・友人の方に「労働者協同組合」の話を

全体として、約2割の方が「労働者協同組合」の話をしたりすることがあると回答した。「積極的に」ということになると平均は1~2%台ということになるが、年齢的には高齢者になるほど何らかの話をしたりする機会が増えているようである。職種別に見ると、ビルメン・清

掃、公園・緑化、福祉・介護で「積極的に」話す人が相対的に多く、4分の1以上が何らかの話をしていると回答している。一方で、低い回答率は物流、食関連である（表57）。

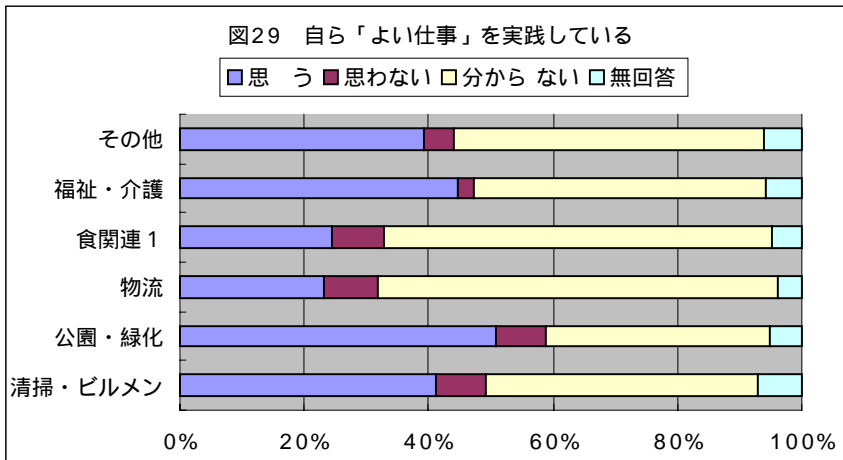
## 6. ICAやJJC加入認知度

日本労働者協同組合連合会がICA（国際協同組合同盟）とJJC（日本協同組合連絡協議会）に加入していることをどの位の人が知っているかを聞いたのが、表58である。ICA加入認知度は23.7%、JJC加入認知度18.4%ということになる。職種別には公園・緑化が最も高く、食関連が最も低かった。男女では男性の加入認知度の方が高い。

## 7. 「職場と私」

### 【「良い仕事」の実践～自己評価】

自分は「良い仕事」を現場で実践していると「思う」人は34.2%で、「思わない」の7.2%を大きく引き離している。



ただ、「分からない」が半数以上の52.6%でもある（表59）。

年代別には30代以下が2割程度の「思う」に留まっているのに対し、60代は46.2%、70代以上は54.4%と高く、自信が見えてくる。

職種別には「思う」の最高は公園・緑化の

50.7%、次いで福祉・介護が44.8%の人が「思う」を選択したのに対し、物流と食関連ではわずか23.0%と24.5%であった（図29）。

全般的には「分からない」人が多いのも現状である。「別記3」に、良い仕事をしていると「思う」人の自由記入の一覧を載せておいた。各人の思いが載っている。大いに職場の仲間と議論するべきであろう。

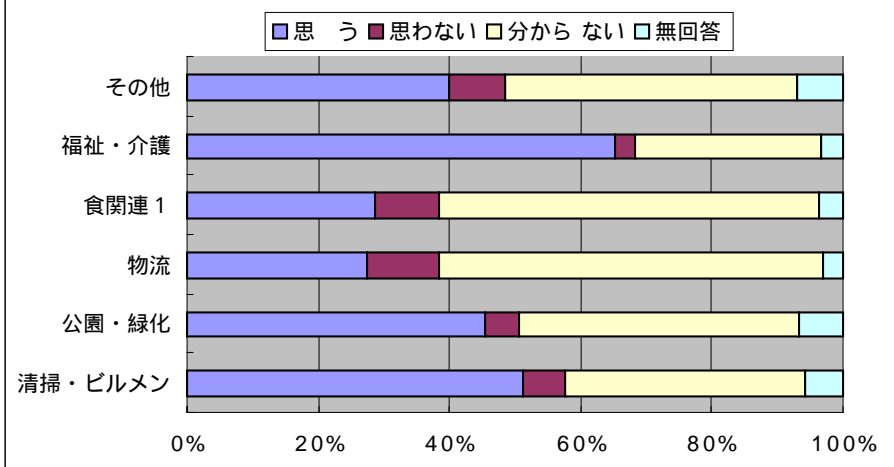
### 【「良い仕事」の実践～事業所としては】

客観判断として事業所・現場は「良い仕事」を実践していると「思う」人は41.2%で、「思わない」人が11.9%、「分からない」41.7%である。年代別、職種別の傾向は前記の自己評価と同様であるが、全般的には自己評価点より高い評価を出し、「分からない」が減少している。

（表59右）

職種別に見ると、「思う」の最高は福祉・介護で63.2%、次いで公園・緑化の53.3%である。低い方はやはり物流（28.6%）、食関連（31.7%）であるが、しかし見方によっては3割も「思う」人がいるのだから、大いに団会議、事業所会議で交流を図ることが必要であろう。

図30 自分の仕事は利用者や地域、オーナーに信頼/評価されているか



【事業所・現場の信頼】

自分の事業所・現場の仕事は、利用者や地域、オーナー等に信頼・評価されているかの質問に「思う」41.4%、「思わない」7.9%、「分からない」45.5%である。「良い仕事」の一部を取り出して質問したことになるが、や

はり回答も「良い仕事」評価と似たものになった(表60)(図30)。

【「協同労働」という言葉の認知度】

この言葉を「知っている」のは平均56.3%で、各年代でも過半数が「知っている」と答えている(50代以下5割台、60代以上6割台)。

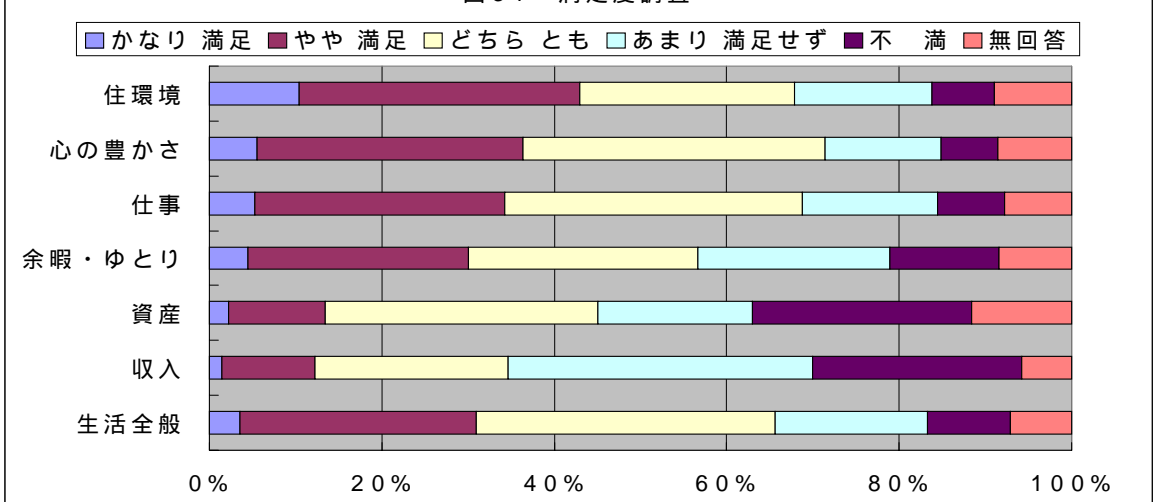
職種別認知度では福祉・介護、ビルメン・清掃で6割台前半を示した(表61)。

・満足度について

1. 総合集計

収入、資産、ゆとり、仕事、心の豊かさ、住環境、生活全般の7項目について、「かなり満足している」「やや満足している」「どちらともいえない」「あまり満足していない」「ほとんど

図31 満足度調査



満足していない」の回答を求めた。

「収入」と「資産」で満足度が低く、「余暇・ゆとり」がそれに続き、以上3項目は満足の方(かなり満足+やや満足)より不満の方(あまり満足せず+不満)が上回っている。他の「住環境」「仕事」「心の豊かさ」の3項目は満足の方が不満の方を上回っている。「生活全般」は満足・不満足が拮抗している(表62)(図31)。(参考:「平成13年度版国民生活に関する世論調査」から、満足度の調査、表62-2)

なお、満足度指標として「かなり満足」を2とし、「ほとんど満足していない」を5とした5段階指標をとってみた。以下は「生活全般」以外は各項目別の有回答者の平均を満足度の低い順から高い順に並べたものである。

【満足度指標】

生活全般	0.03
収入	0.74
資産	0.60
余暇・ゆとり	0.14
仕事	+ 0.09
心の豊かさ	+ 0.17
住環境	+ 0.25

男女別では諸項目において女性の方が満足度は高い。以上の点を踏まえながら各項目について追ってみたい。以下、満足度の低い順から職種別年齢別中心に分析したい。

2. 生活全般

満足の方に答えたのは31.0%、不満の方に答えたのは27.3%である。ただし、先の「満足度指数」ではやや不満に傾いているように「ほとんど不満」の比率が高い。職種別には満足の方の最高値は福祉・介護の45.7%で物流とともに満足が上回っている、最低値は公園・緑化の25.4%で、ビルメン・清掃と食関連と共に不満が優勢である。年齢別には20代と30代で不満の方が上回っていて、他は満足が優勢である(表63)。

参考までに2001年9月実施の「国民生活に関する世論調査」の結果平均と比較すると全般的に本アンケートの方が満足度は低く現れているといえる(表63-2)。

3. 収入に関して

満足の方に答えた組合員は12.3%、不満の方に答えたのは58.5%で、収入はすべての職種・年代で圧倒的に不満で、設問項目中満足度が最も低い。少ない中でも職種別には満足の方の最高値は福祉・介護の23.1%、最低値は食関連の6.4%であった。年齢別には若年と高齢者の満足度の比較的高い結果が現れている(表64)。

4. 資産に関して

満足の方に答えた組合員は13.4%、不満の方に答えたのは43.3%で、資産についてもすべて



の職種・年代で不満である。少ない中でも職種別には満足の方の最高値は福祉・介護の23.6%、最低値は公園・緑化の9.3%であった。年齢別には中高年・高齢者の満足度が比較的高い(表65)。

#### 5. 余暇・ゆとりに関して

満足の方に答えたのは30.0%、不満の方に答えたのは34.9%で余暇・ゆとりについては総体として不満が優勢である。職種別には満足の方の最高値は物流の39.8%で唯一満足が上回っている、最低値は公園・緑化の21.4%である。年齢別には特に大きな差異は見られない(表66)。

#### 6. 仕事に関して

満足の方に答えた組合員は34.3%、不満の方に答えたのは23.4%で、仕事については満足がすべての職種・年代で優勢である。職種別には満足の方の最高値は福祉・介護の48.6%、最低値は食関連の30.2%である。年齢別には中高年の満足度が比較的高い(表66)。

#### 7. 心の豊かさに関して

満足の方に答えた組合員は36.3%、不満の方に答えたのは20.0%で、心の豊かさにおいても満足がすべての職種・年代で優勢である。職種別には満足の方の最高値は福祉・介護の54.7%、最低値はビルメン・清掃の32.0%である。年齢別には特に大きな差異は見られない(表67)。

#### 8. 住環境に関して

満足の方に答えた組合員は43.0%、不満の方に答えたのは23.2%で、住環境については満足がすべての職種・年代で優勢で、設問項目の中では満足度が最高である。職種別には満足の方の最高値は福祉・介護の51.9%、最低値は公園・緑化の36.0%である。年齢別には中高年の満足度が比較的高い(表68)。

## 別記 1 : 現在持っている資格自由記入欄

### トップ～10人以上

自動車運転免許証(365人)、ホームヘルパー(1,2,3級)の(261人)、調理師免許(74人)、簿記(61人)、珠算(54人)、フォークリフト(36人)、危険物取扱・高圧ガス関連取扱(33人)、ボイラー関連資格(29人)、栄養士(24人)、電気工事・設備資格(21人)、介護福祉士(22人)、保母・保育士・幼稚園教諭・小学校教員免許等(18人)、看護師(15人)、防火管理者資格(15人)、ワープロ・パソコンソフト技能(14人)、中学高校教諭免許(12人)、溶接(12人)、クレーン(11人)、華道・生花師範(11人)、衛生管理者(10人)、保険業務(10人)である。

### 9人以下

玉掛(9人)、国内英検(8人)、タイプ(和・英)(8人)、リフト(6人)、社会福祉主事(6人)、歯科衛生士・技工士・助手(6人)、宅建(6人)、書道(師範含む)(6人)、ペン字検定(6人)、医療事務(6人)、消防設備士(5人)、理容師(5人)、着付講師(5人)、編物・同教師(5人)、図書館司書(4人)、小売商・販売士(4人)、秘書検定(4人)、病院清掃受託(4人)、情報処理検定(3人)、冷凍機関連資格(3人)、造園師・造園技術士(3人)、美容師・管理美容師(3人)、レクインストラクター(3人)、漢字検定(3人)、特殊無線技士(3人)、行政書士(2人)、介護アテンドサービス士(2人)、労務管理士(2人)、ビル管理士(2人)、左官技能士(2人)、運行管理者(2人)、16mm映写機操作免許(2人)

### 1人

色彩検定3級、バリアフリー、ヘルスケアトレーナー、各種学校洋装教員免許、フードテクニカルコーディネーター、配管工、酸欠、分析技能士1級、水質大気4種、起重機、ビジネスコンヒーティング3級、一級船舶、レクインストラクター、粉塵作業主任、臨床病理技士、古本商許可証、折り紙講師、救急救命士、プラッタ修了証、和裁師範、ビルメン、クリーニング師、空手二段、スキー級、(甲)国連英検、職業訓練指導員免許証(和裁科)、国家3級整備士、小型車査定士、上級救命士、日赤応急法、第4種水質管理技術者、第4種大気管理技術者福祉用具相談員、技術指導員、不動産取引主任、公害防止技術(水質)、国内旅行取扱主任者、職業訓練指導員、船の機械免許、ビルクリーニングメンテナンス技能士、火災整備士、清掃員、日本舞踊、編み物講師、藤沢市青年技能章、公害防止管理者(大気1種)公害防止管理者(水道1種)、特定化学物質取扱主任者、清謡連合会(民謡)準師範、応急手当普及員、民謡名取、洋裁、和裁、家庭用電子機器修理者、アマチュア無線、ファイナンシャルプランナー、救急員、コンピュータ利用技術3級、電話交換取扱資格、OAシステム、電話交換手、博物館学芸員、着物3級、熱管理士、特定化学物質等作業主任、事務管理、家庭科講師資格、服飾技能検定3級、昇降機検査士、はり積作業、貯水槽清掃作業監督者、ビルメン清掃、第一種圧力容器取扱主任、ホイスター、掲貨装置、はい作業、旅程管理主任者、全経1級、法人税法2級、所得税法3級、計算実務2級、車両系建設機運転、モーターボート(4級)、アマチュア無線、洋裁、2級土木施工管理技師、給排水衛生設備技能士、助産婦、児童福祉司、家庭相談員、計算尺3級、第1種圧力容器、食品衛生責任者、電話、2級施工管理士、手芸関係全般、洋裁検定初級、ビルクリーニング技能士、清掃作業従事者研修指導者、二級土木・建築施工管理、社会保険労務士、職長等安全衛生、軽運送事業、2級建築士、弓道初段、家庭電気2級、庭園管理士、JIBパン技術士、製菓衛生師、有機溶剤作業主任者、木材人工乾燥士、車体整備士、ラジオ音響、建設機械(コンボ)、木材加工用機械作業主任、電卓計算、福祉器具貸与、フットセラピスト、折り紙講師、身体障害者スポーツ指導員。

別記2：過去5年間での習い事、教室など  
4回以上29名の内訳（設問2-27）

年齢	どこで1	何を1	どこで2	何を2	どこで3	何を3
10代	町	手話	学校	介護	教室	英語
35-39歳	カ ル チ ャ ー	茶 道	カ ル チ ャ ー セ	華 道	カ ル チ ャ ー セ	テ ニ ス
35-39歳	石 島 着 付 学 院	き も の 着 付	小 笠 原 流 生 花 教 室	生 花	ワ ー ク ス ク ー ル	パ ソ コ ン
35-39歳	ね ん ど 教 室	ね ん ど	文 化 ホ ー ル	ト ー ル ペ イ ン ト	通 信	医 療 事 務
40-44歳	事 業 団	ヘルパー 2級	書 の 教 室	書 道	公 民 館	パ ッ チ ワ ー ク
40-44歳	公 民 館	ヨ ガ	公 民 館	手 芸	公 民 館	婦 人 講 座
45-49歳	横 浜 産 経	ヨ ガ	ヘルパー 会	ヘルパー 2級	パ ソ ナ こ ん 塾	ワ ー ド 、 エ ク セ ル
45-49歳	東 武 カ ル チ ャ ー ス	フ ラ ワ ー セ ラ ビ ー	大 学 栄 経 理	パ ソ コ ン	ビ ジ ネ ス 福 祉 専 門	介 護 福 祉 課 程
50-54歳	教 室	お 花	プ ー ル	ス イ ミ ン グ	個 人 の 家	ね ん ど
50-54歳	古 典 フ ォ ー ラ	万 葉 集	古 典 フ ォ ー ラ	論 語	古 典 フ ォ ー ラ	風 水
50-54歳	書 道 教 室	書 道	木 彫	木 彫	押 絵	押 絵
50-54歳	N H K 学 園	介 護 福 祉 士	労 協 セ ン タ ー	福 祉 用 具 談 話	公 民 館	ヨ ガ
50-54歳	カ ル チ ャ ー ス	絵 手 紙	水 泳 ク ラ ブ	水 泳	生 け 花 教 室	生 け 花
50-54歳	先 生 の 自 宅	日 舞	教 室	ソ シ ア ル ス ダ ン ス	先 生 の 自 宅	書 道
50-54歳	地 区 公 民 館	パ ッ チ ワ ー ク	地 区 公 民 館	つ ま み 絵	地 区 公 民 館	陶 芸
50-54歳	事 業 団	ヘルパー 講 座	甲 西 町	I T 講 座	公 民 館	ち ぎ り 絵
55-59歳	生 涯 学 習	書 道	生 涯 学 習	カ ラ オ ケ	町、行政	パ ソ コ ン
55-59歳	市	お 茶	市	気 功	近 所	踊 り
55-59歳	セ ン タ ー 事 業 団	ヘルパー 2級	公 民 館	書 道	教 習 所	運 転 免 許
55-59歳	ス ポ ー ツ ク ラ ブ	水 泳	市 の 近 隣 セ ン タ ー	着 付 け	市 の 近 隣 セ ン タ ー	女 性 教 室
60-64歳	N H K	絵 画	地 域	万 葉 集 一 般	日 本 園 芸 協 会	庭 園 管 理
60-64歳	社 会 福 祉 協 議 会	福 祉 ・ 保 険 セ ミ ナ ー	労 協 ・ 高 齢 協	ヘルパー 2級	労 協 ・ 高 齢 協	ヘルパー 3級
60-64歳	通 信 教 育	賞 状 技 法 士	通 信 教 育	書 道 師 範	夜 学	ヘルパー
60-64歳	公 民 館	中 国 語	生 涯 大 学	手 話	千 葉 県	自 然 環 境
60-64歳	町 田	手 話	町 田	パ ソ コ ン	藤 友 会	囲 碁
60-64歳	健 康 大 学		食 料 改 善		絵 画 教 室	
65-69歳	後 藤 学 園	調 理 師	日 本 書 道 協 会	ペ ン 習 字	区 民 会	琴
65-69歳	プ ー ル	水 泳	町 内 会 館	健 康 体 操	先 生 宅	絵 手 紙
65-69歳	パ ソ コ ン	ワ ー ド	パ ソ コ ン	エ ク セ ル	パ ソ コ ン	ア ク セ ス

特集 2001年 労協・仕事と暮らしに関するアンケート調査報告

どこで 4	何を 4	どこで 5	何を 5	どこで 6	何を 6	月額費用
町	スポーツ					～ 1.0万円
専門学校	和裁	カルチャーセンター	ペン習字			～ 1.0万円
簿記教室	簿記	市のサークル	スキー	市のサークル	ゴルフ	～ 1.0万円
教室	整体					～ 3.0万円
公民館	パン作り					～ 1.0万円
町会館	パソコン					～ 0.5万円
	福祉用具相談員					～ 1.5万円
ときわ台 O A S	ワード、エクセル					～ 2.0万円
教室	体操					～ 1.5万円
古典 フォーラ	古事記					～ 0.5万円
気功	気功	ダンス	ダンス			～ 1.0万円
労協センター	ヘルパー2級講座	大宮駅前	パソコン	大宮駅前	きもの着付	～ 2.0万円
家で夫から	パソコン					～ 0.5万円
教室	パソコン	通信教育	絵手紙			～ 2.0万円
市公募	パソコン					～ R0.5万円
町体育館	スポーツ教室					NA
生涯学習	フラダンス	生涯学習	料理			～ 0.5万円
近所	パッチワーク					～ 1.0万円
パソコン教室	パソコン					～ 2.0万円
ゴルフ練習場	ゴルフ	ベターホーム	料理		茶道	～ 2.0万円
教室	宅建	事業団	福祉用具相談員			～ 3.0万円
日本園芸協会	住まいの庭園技能	日本カルチャー協会	樹医養成講座			～ 0.5万円
夜学	公害2級					～ 1.0万円
生協	ボランティアと	生涯大学	福祉			～ 1.5万円
藤友会	ダンス	藤友会	マージャン			～ 1.0万円
保険大学		パソコン教室		詩吟		～ 2.0万円
辻クッキング	料理	マリールイズ	着付	藤本	三味線	～ 2.0万円
コミュニテイ	フラダンス					～ 1.5万円
パソコン	IT					～ 3.0万円

## 別記3：「良い仕事」の具体例自由記入欄

(全部ではないが) 利用者の立場に立った仕事が成り立っている。

1人で診療所の清掃をし、感謝されている。

5つのS(整理、整頓、清潔、清掃、しつけ)。

あいさつ。笑顔。返事。

あき時間には気がついたことをしている。

ある程度点検する。

アンケートをとり、老人に好まれる食事を調査、研究中。他施設を訪問。

オーナーが言う前に先手で行い信頼を保つ。

オーナーに喜ばれるよう努力する。

オーナーに認められること。

オーナーの意見を聞き、実行している。

オーナーの要望・不満を常に情報収集する。組合員の勤労寄与と区を高める。

オーナー側からの予約以上の仕事をしている。

オーナー側から見てどんな仕上がりかという点と、仲間との話し合いで終了するかどうかが決定している。

オーナー側との話し合いにより、確実に実践・実行。

オーナー側の利益と節約に努め、トラブル対応や業者立会いなど資料を作成し報告を敏速にする事が、現場との。太いパイプを作り、信頼性が保たれて来た。

お客様(利用者)を大切にしています。

お客様が喜んでくれた。

お客様が気持ちよく過ごせるようきちんとした仕事。

お客様は神様である。

お年寄りが常に喜んでる。

お年寄りを大事に扱うようにしている。

キレイな仕事。

キレイな仕事。

きれいな仕事だから。

きれいな仕事より確実な仕事。

クレームがないように。

クレームが出ないこと。

ケアのないようにばらつきが無いよう、ケア会議で決めている。

サービスの質の追求(手を抜かない、時間超過を厭わない)。

サービス提供者と連絡をとりながら、より良いケアを目指している。

スタッフ不足。

スピーディかつ正確、そして超衛生的。

スミからスミまでやっている。

すみやかな対応。解らないことは指示をあおぐ。

その方の生活の仕方・気持ちを優先し大事にするように心掛けている。

つらい、大変を分けず、働いている。

デイサービスの立ち上げに参加し、今後の展開に向け努力している。

テナント関係者等への挨拶、気配り。

トイレ清掃には自信がある。

なるべく無駄を省いて、効率よく仕事をしていると思う。

パンの共同購入拡大に協力。

プロとしての確かな仕事の完遂を目指している。

プロ意識を持つこと。組合員に迷惑をかけないこと。助け合うこと。

ヘルパーとして、利用者さんの気持ちを考えて頑張っている。

ヘルパーとして質を高める努力。

ヘルパーとして人様の助けをしている。

ヘルパーをしているが、いつも相手の身になって考えてやっている。

ボランティア活動。

まじめに一生涯懸命。

マスの仕事をやっている。

マニュアルを作成し作業内容の統一化に努めている。

マニュアルを正確に行っている。

ミスが無いように常に心がけている。

ミスしない。他の人より積極的に体を動かし頑張る。

ミスなく効率よく。

ミスなし・ロスなしで仕事をしている。

ミスの無いように心がけている。

ミスの無いよう頑張っている。

ミスの無いよう努力している。

ミスをゼロに近づけるべく、努力している。

ミスをなくす。

ミスを出さない。

みる目を養う。

みんなが気分よく働けるように。

メニューの工夫。配食の拡大。

もっときれいにしよう、今日よりは明日、もうすこしこうしよてみよう。

よい仕事を考え方から行っている。

ワックス予定表を病院に毎週提出。点検委員の点検と報告は実によい。

挨拶。

挨拶をする（しない人ばかりだから）。  
安全確認、作業進行のための指差し確認など。  
依頼書が届いたら、直ちに対応する。利用者の反応の把握。  
委託であってもオーナー側にはっきり意思を言えるように、普段から信用を得る仕事をする。オーナーの立場になって、損得を考えずにしっかり仕事をする。  
医療環境の中での清掃に関わるものとして。  
一生懸命。  
一生懸命に働いている。  
一生懸命仕事をする。  
一生懸命全力でする。  
衛生面に気配り。  
汚れているところを特に注意してきれいにする。  
何事も一生懸命やっている。  
家事・食事援助の仕事に対して喜んで下さる。  
改善できることに努力。  
皆で協力し合い作業すること。  
皆で助け合っていること。  
皆で立てた立案のそって、心をこめて日々利用者さんと接していくこと。  
皆で話し合いながら、仕事の流れやミス防止を心がけ、日々取り組んでいる。  
皆のこと（忙しいとき）を考えて、休みをなるべくとっていない。  
皆様に喜んでいただけるように。  
各種チェックリスト、作業標準化等ソフト面で作業向上。  
確実性と効率性の実施。  
患者さんに対する言葉遣いに気をつけ、笑顔を心がけている。  
患者に喜ばれるような仕事をする。  
患者や職員に信頼・評価されるよう心がけている。  
感性ではなく、仕事を数値的・具体的に改革する。  
慣れたからと手を抜かないこと。  
間違いの無いよう気をつけている。  
喜ばれるよう頑張っているつもり。  
基本に沿った仕事。自分がお金を出す立場になって。  
基本をしっかり守り、出来るだけきっちりやり遂げること。  
基本を忘れないこと。  
気配り、思いやりを持った仕事をする。  
客が気持ちよく泊まれるようにする。  
客に対しコミュニケーションをよくとる。  
業務改善、就業時間内でスピーディーな処理。  
勤務時間を守る。オーナーの立場に立って仕事尾をする。  
勤務時間内で仕事をこなすことが出来ないため、時間外でも早朝より出勤し、仕事をしている。  
繰り返しミスの撲滅。効率作業への工夫。自職場及び次工程への配慮・工夫。  
契約以外の作業も行っている。  
契約先とのつながりを第一と考え仕事をしている。  
決められたことはしっかりする（責任ある仕事）。  
決められたことを時間内に一生懸命やる。  
決められた仕事は忠実にやる。老人に優しく手を貸す。  
決められたことは実践している。  
健康に気をつけ、責任を持って仕事をしている。  
元気で仕事に取り組む。  
厳しい仕事場だが、少しでも良い仕事場となるよう仲間と頑張っている。  
現場での新人指導。リーダーシップをとる。  
現場で作業中、地域の人のお礼の言葉があったとき。  
現場の周囲との協力や助け合い。  
現場をきれいに、整理整頓、清掃すること。  
限られた時間内での積極的な清掃。  
雇い主が希望することを心で感じ実行する。  
顧客のデータベースを作った。ニュースを作った。  
効率化。  
工程表通りにできている。  
行政・他事業所へ営業アピールをし、仕事先を増やし、利用者に喜んでいただける場面が多くなっている。  
高い所、立体面、その他。  
合理化。  
細かいところに気を使う。  
作業の効率、無駄な作業をしないこと。  
作業の効率化を考えて行っている。  
仕事が遅れている人の手助けを積極的に行う。仕分け時、自分がその商品を受け取る立場に立ってできるように心がけている。  
仕事しやすいよう患者さんとコミュニケーション等をとるようにしている。  
仕事にプラスなことを、仲間とよく話し合う。  
仕事に生きがいを持ち、人に喜ばれるよう努力している。  
仕事に生きがいを持っている。  
仕事に責任を持ち、オーナーからクレームの無いよう心がける。  
仕事に責任を持つ。  
仕事に対して、常に自分の持っている力を出している。  
仕事に対し責任を持ち現場で間違いのない仕事をしている事。  
仕事の水準を落とさず、安全に気をつけている。

仕事の正確さ。  
 仕事の優先順位、効率。誠心誠意。清潔、温和、自尊他尊。  
 仕事はすみずみまできれいにする。  
 仕事は最後まで責任を持つ。  
 仕事は丁寧に、大切に、間違えないよう取り組んでいる。  
 仕事をきちんとする。  
 仕事をきっちりと早くすること。  
 仕事をしっかりやるようにしている。  
 仕事を確実にやる。  
 仕事を基本通り、正確に行う。  
 仕事で、手を休ませないようにしている。仕事先の上司からきれいになったと言われたとき。  
 仕事内容の標準化。能率向上。ミス防止。  
 仕事崩れがあってはいけない地域住民から賞賛されるように。  
 思いやりを持って仕事をしている。  
 施主からクレームが出ないよう充分気をつけること。  
 私語をつつしむ。  
 時間に関係なく自分が納得のいく仕事を、最後まで責任を持ってやり遂げる。  
 時間を守る。正確に早く。  
 時間前に見回りをし、現場を把握しておく。  
 時間内に終わらせる。  
 次の行程はお客様という意識で働いている。  
 次の仕事を考えて作業をする。  
 自ら進んでやる。  
 自ら進んで行く。  
 自主的にやっている。  
 自発性を心がけている。  
 自分が納得できるケアをすること。  
 自分が買う身になって。  
 自分で計画をたて、無理のないように実行している。  
 自分で思ったことが出来たとき。  
 自分のやるべき仕事を効率的に行えるよう、考えながら働いている。  
 自分の仕事がしやすいように、朝一番に周りを片付けること。  
 自分の仕事が自慢できる。  
 自分の仕事にはプライドを持って。  
 自分の持ち場をしっかりとやり遂げる。  
 自分の担当の仕事を積極的に増す努力をしている。  
 自分の納得する仕事。  
 自分の役割でなくとも自分に出来ることは行うようにしている。  
 自分以下新人たちは15分前には仕事をしている。重いパレットは人の分も積んでいる。全員で運んでいたパレットを、1人で運んでいる(週一回)。  
 自分自身の仕事の役割を忠実に遂行し、真の良い仕事をしている。  
 自立。オーナー依頼。評価。  
 弱い人に優しく行動。  
 手を抜かない。相手の立場で考える。  
 手を抜くことなく、まじめに。  
 手際よくより良い仕事をしやすいよう、常に配慮している。  
 手洗い石鹸を作る。  
 手抜きをしない。  
 手抜きをしない。  
 手抜きをせず、与えられた仕事をしっかりとやる。  
 周りの人から指摘されないよう仕事に気をつけている。  
 出来る限り積極的に行動する。  
 出来る範囲内で全てやっている。  
 巡回点検。衛生管理。管理清掃(ポリシャー、ドラゴン)。  
 初心を忘れず、自分自身健康であること。  
 初心を忘れず。  
 商品の棚入れを間違えないよう気をつける。  
 商品を丁寧に扱う。  
 省エネ。  
 笑顔を絶やさず、利用者の立場に立てよう努力している。  
 常にお客さまに、笑顔と低姿勢で接する。  
 常に清潔に気をつける。  
 常に前向きに。  
 常に勉強に努める。  
 職員・患者さんへのマナー。埃・汚れの徹底除去。  
 職員と話合って仕事をしている。  
 職場での決まりごとを忠実に守っている。  
 職場の仲間との話し合い。  
 食する人の身になった味付け・配膳。  
 食関連で利用者に喜ばれるよう、日々努力・勉強している。  
 食中毒・火災を起こさぬよう最善の注意。事故防止のため濡れている床を常にふく。  
 信頼関係。  
 心をこめた清掃をしている。  
 心をこめて、自分が出来ることを。

新清掃方式でほこり・ごみ・汚れをなるべくとるように。  
新方式になってからは大分進歩したと思う。  
新方式の定着。  
真心を込めて対応するよう心がけている。  
親切、サービス。  
親切、サービス。いかに原価率を良くするか。  
進んで仕事をやる。  
人との和に。  
人に言われるのではなく、自分が気付いた所を清掃している。  
人に後ろ指指されないようにしている。  
人に優しく、思いやりの心。  
人のためになるよう心がけている。  
人や取引先の会社に迷惑をかけないよう、ミスの無いようにしている。  
人間関係を大切にしている。  
人様に喜ばれる介護。  
迅速かつ丁寧、きれいをもっと。  
整理整頓。  
正しい言葉遣い。挨拶。  
正しく理解をして仕事にあたる。  
正確な作業（他の人に迷惑をかけない）  
正確に落ち着いて。  
正直。丁寧に。  
正直な仕事をしている。  
清潔。  
清潔。  
清潔。  
清掃の仕事を個人的にやっていた経験を、技術面でいろいろ生かしている。  
清掃の仕事を早くきれいする。  
清掃をしてホコリをすみずみまでとりきること。  
生協に迷惑をかけない仕事。  
生協会員の手元に商品が良い状態で届くように、又できるだけ早く作業できるように努めている。  
製品一本一本を、真心を込めて見ている。  
誠意を持って仕事にあたってはいる。  
誠実に仕事をしている。  
積極的に全員で用務員の手助けをしている。  
責任を果たす。  
責任を持つ仕事をしている。  
責任感。丁寧にきっちりやるよう心掛ける。  
設備管理の作業上、完璧を目指すこと。依頼者の信頼を得ること。  
先輩や上司の話をよく聞き、ミスのないように心がけたい。  
先輩や利用者さんの家族の仕事ぶりをじっくり見て、自分で実際やってみる。  
前向きな対応。  
全体に目を配る。  
全体運営。新清掃指導。鞍手中高年とヘルパー学校共同開催検討。  
全体的によく磨いている。  
全力をそそいで、精一杯やる。  
組合員（コープ医療生協）の立場に立つこと。  
掃除を自分から進んでやる。  
相手にバランスのとれた食事作りをする。  
相手に対しての思いやり。  
相手のお客様を考えて仕事。  
相手のことを考えて仕事をしている。  
相手の気持ちで仕事をしている。  
相手の気持ちになって仕事をする。  
相手の気持ちになって努める。  
相手の立場になって考える。利用者に今一番必要なことを優先する。  
相手の立場になる。  
相手の立場に立って。  
相手の立場に立って考えた仕事をする。  
相手の立場をよく理解する。心からの介護。話を良く聞く。  
相手方に喜んでもらえる仕事。  
他の施設等に無いサービスの提供。  
他の人にきれいと言われるような清掃をする。  
体調を整える。喜んで頑張る。  
対話で希望と元気を与えられたら。  
誰からも信頼されるように（明るい態度、清潔な清掃）  
担当の仕事最後まで責任をもってやる。相手が喜ぶような働き方をする。  
地域に密着した利用者本位のサービス。  
地域の人々の事をいつも考えて仕事をしている。  
地域行事の世話。  
地域福祉の実現を地域に根ざして取り組んでいる。  
仲間が効率的に仕事ができるようにしている。  
仲間のことを考えて仕事をしている地域の人たちにとって、有意義だと思うから。



仲間作りと情報の共有。  
 仲間同士の意見交換。連絡を密に。  
 仲間同士話し合い、クリーン目指して頑張っている。  
 忠実・誠実。  
 忠実に与えられた仕事をやる。  
 丁寧で早い仕事。  
 丁寧な仕事。  
 徹底して清掃を行っている。  
 働いている人たちが気分欲働けるよう。  
 同じ現場でも常に学習している。  
 同じ仲間として、経営内容・悩みなど、話をし解決するよう努めている。  
 道路脇での除草（通行者に礼を言われてた）  
 日常清掃の目配り、気配り。  
 年長者として率先垂範行動している。職場全体の対人関係が良くなるよう、目配り・気配りしている。  
 納得のいく仕事。  
 能率の良い無駄のない手順で仕事。  
 能率を考え、アイデアを取り入れている。  
 売上と仕入れの比率に気をつけている。  
 売店業務で即回答できること。  
 美味しく食べてもらえるよう、デイクア給食を心をこめて作っている。  
 必ず期日を守る。報告・相談を心がけている。  
 病院からの信頼を得るため、仕事の質の向上に努力すること。  
 病院での挨拶、配慮。きれいにする。  
 物流以外に清浄の応援など。  
 分からない。  
 分からないことは相談して解決につなげ、自分自身でいろいろな事を勉強している。  
 片付けたり、早く来ること。  
 勉強している。  
 毎日グループの目標に向けて、一生懸命仕事をしている。  
 毎日の食事を喜んで食べていただけるように努力している。  
 毎日努力。  
 無事故安全。  
 無駄な仕事をなくし、効率よく。  
 明るく対応する。  
 目配り気配り。  
 目標を決めて作業している。  
 目標を持ち、少しづつ達成されている。  
 約束を守る。仕事での集中力強化。常にオーナーの望んでいることを聞きだし実行する。  
 与えられた仕事をきちんとする。  
 与えられた仕事をするとともにプラス として汚れているところをする。  
 与えられた仕事を確実にやっている。  
 与えられた仕事を忠実に果たすこと。  
 頼まれなくてもトイレに野の花などを飾ったりしている。  
 利用者さんやその家族から感謝されたとき。  
 利用者との会話や生活面で信頼関係を大切にしている。  
 利用者にあったケア。  
 利用者に感謝されていること。  
 利用者に感謝の言葉をかけられたとき。  
 利用者に喜んで戴けるように常に心がけている。  
 利用者に暖かい言葉をかけるそして、相手の立場を理解してあげ励ます。  
 利用者に満足していただけるよう努力している。  
 利用者に満足してもらうための努力。経営上の無駄を無くす。  
 利用者のために、本で介護の勉強。  
 利用者のニーズに応えられるよう、いつも心を広くもち、信頼されるように。  
 利用者の希望をよく聞き、出来ることは行っている。  
 利用者の気持ちになって、希望していることを出来るように心がける。  
 利用者の気持ちになって仕事をしている。  
 利用者の自立に役立っていく。  
 利用者の身になって、調理に手拔をしない。  
 利用者の身になって仕事をする。  
 利用者の生活の向上に積極的に支援する。  
 利用者の背景にあるものを理解し、その人らしさを支えることを大切に。  
 利用者の立場を良く考えてサービス。  
 利用者一人一人に合った介護により、「生きていて良かった」と思ってもらえる仕事を目指し、実践している。  
 利用者主体のサービスを維持している。  
 良い改善を考えている。  
 良質の商品の提供。  
 緑化、公園で働いていて、きれいにして喜ばれている。  
 礼節な勤務姿勢。  
 連絡と調整。仕事の効率化。  
 労協の目的や理念に沿うべく、心を持って日々仕事に取り組んでいる。  
 剪定、除草、ビルメンテで、オーナーの評価良好。  
 埃、汚れは全てとりきる。